

2021（令和3）年度
事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	10
03 やまばと希望寮	14
04 わかば(もくれん含む)	17
05 みぎわ	20
06 ケアセンターさざんか	22
07 ケアセンター野ばら	25
08 ケアセンターかたくりの花	27
09 ワークセンターカサブランカ	30
10 ワークセンターコスモス	33
11 ワークセンターなのはな	36
12 ワークセンターあさがお	39
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	42
14 ワークセンターやまばと	48
15 ワークセンターさくら	51
16 ケアセンターマーガレット	54
17 レタスクラブ	57
18 生活支援センターやまばと	60
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	63
20 グレイス(ショートステイ含む)	67
21 相寿園	70
22 ぎんもくせい	73
23 デイサービスセンター真菜	76
24 デイサービスセンターすずらん	79
25 ライフサポートさふらん	82
26 居宅介護支援事業所シャローム	85
27 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	88
28 コミュニティセンターぶどうの木	90
30 付属明細書	92

2021年度（令和3）年度 法人全体 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

A 総括

2019年末に中国で発生した新型コロナウイルスは、2021年度も、様々の変異株に姿を変えながら猛威をふるい、私たちは、行事の中止や外出制限など、様々の影響を受けることになった。2022年1月20日、通所施設利用者1名に初めて感染者が出て事業所を休業。それ以降、幾つかの施設（主として通所施設）で感染者が出て休業を余儀なくされたが、クラスターに至らなかったのは幸いであった。その他の大きな出来事としては、EPA生1名が聖ルカホームで働き始めたこと、資格取得者が増えたこと、「デイサービスセンター真菜」と「ケアセンターさざんか（次年度からの名称は花もも）」の建設工事が完了したこと、社会福祉法人連携により生活困窮者へ食糧支援をしたことなどがある。本年も職員育成に力を入れ、特に主任等研修を年間を通して継続的に行い、その成果もあったが、一方では入所施設における不適切ケアもあり、なお一層、一人一人の職員の成長のため最善の対応をしつつ、良い人材確保のため努力していかねばならない。

B 2021年度牧ノ原やまばと学園の事業概要

1 評議員、理事、監事の氏名と任期

（アイウエオ順、敬称略）

評議員（9名。任期は2021年6月～2025年6月の定時評議員会）：

柴田敏、杉本正、外岡潤、田島逸雄、長谷川清太、早川ひろみ、久田則夫、山城厚生、渡辺紀久子
理事（7名。任期は、2021年6月17日～2023年6月定時評議員会）：

姉崎弘、大石幸、金子初子、神谷美代枝、佐々木炎、長澤道子、松田正幸（下線は理事長）
監事（2名。任期は、理事と同じ）：鈴木武、松浦隆雄

2 評議員会や理事会等の開催数

評議員会：1回（定時評議員会）、理事会：5回、評議員選任解任委員会：1回
監事監査：業務監査も会計監査も2回（定期監査と決算監査）
開催日時や内容等は、添付資料「事業報告B-2」に記載したので、参照のこと。

3 2021年度実施の事業、種別、責任者名、職員数等（2022年3月31日時点）：

計画に挙げた通りの事業を実施した。各施設の責任者名等は「事業報告B-3」に記載。

4 2021年度に実施した研修：添付資料「事業報告B-4」に記載したので、参照のこと。

5. 2021年度末の職員状況：総人数は476名（2022年3月31日時点）

	正規職員	準職	嘱託	パート	パ・利用者	非正規・計	職員総数
男性（人数）	73	10	4	36	11	61	134
女性（人数）	110	21	5	205	1	232	342
平均年齢（才）	48.1	48.8	68	58.6	50.1	57.5	53.9
平均勤続年数 （年）	12.08 男 12.24 女 11.97	7.4 男 10.58 女 5.80	13.22	7.12 男 5.97 女 7.32	5.49	7.27	9.12

（注）パ・利用者とは、就労継続A型事業所のメンバー。法人の職員であり、ご利用者でもある。

C 重点目標と、達成状況

2021年度の三つの重点目標は、「理念の確認と実践」「職員の育成」「職場環境の整備」であった。以下、この1年間の実践状況に関して報告する。

1 理念の確認と実践

- (1) **全職員の学び**：前年度に発行した「創立 50 周年記念誌～それでも一緒に歩いていく～」を、2021 年度新年度研修のテキストとして、事前（1 月～4 月）に各施設で読んだ。施設により学びの差はあったが、歴史や理念を知る良い機会となった。
- (2) **管理者たちの理念の学び**：前述記念誌「それでも一緒に歩いていく」を読み、管理者会議で読後感を発表した。「ともに生きる」について考える時になったが、担当箇所以外は精読せず、グループ討議もなかったため、今後も継続し学びを深める必要がある。
- (3) **サービス提供指針の浸透**：ほぼ全ての施設で読まれ、理念を実践するための手引きとして活用されている。にもかかわらず、入所施設において不適切なケアが発生した。その原因を探り、どの施設においても「人格尊重」の支援ができるよう改善したい。
- (4) **法人の方針に連動した事業所の計画と報告**：新書式を作成し、当年度報告書より活用。

2 職員の育成

(1) 計画内容と実施状況などは、下記のとおりである。

計 画	実践の場や状況	達成度	評価／今後の改善点等
(1) 職員像の提示	オリエンテーションの場などで説明	△	分かり易い表現にする必要がある。キャリアパスと関連して示せるとよい。
(2) 資格取得の奨励	資格取得し易い内容に就業規則改定	○	処遇改善加算による有資格者優遇に加え、就業規則の改定もあり、資格取得希望者増加。
(3) 次世代リーダーの育成	主任等に対し、継続的に研修を実施	△	相当数の職員が、「宿題に追われて忙しかったが研修は有意義」との感想を述べている。
(4) 主任たちを講師として活用	コロナで行事もなく、出番はなかった	△	管理者の活用も十分なされていない状況なので、まずは各施設で主任の活用をしたい。
(5) ケース会議の中身の充実	改善された施設もあったが全施設ではない。	△	研修、或いは実際のケース検討会の発表等を通して学び、レベルアップを図る。
(6) 業務の標準化	大半の施設でマニュアル作成	△	まだ、業務の標準化がなされていない施設もあるので、実践を促したい。
(7) キャリアパスの検討と更新	管理者たちの意見を聞いて一部改正	△	等級表に関する改正はできたが、研修内容について検討する必要がある。
(8) 法律や、労務、会計等の学び	多数の事務職員が、Zoom 研修に参加。	△	法律研修は開催できなかった。管理者のための経理の学びも、今回は未実施。
(9) 働き方の工夫	ロボットやノーリフトケアの活用なし。	×	シニアワーカーは多くいる。／新しい取り組みをしている施設を見学する必要あり。
(10) 地域福祉への自覚	2021 年度全体職員研修での学び	△	開拓的な実践はなかったが、できることは自分たちもしようとの意識は深まった。

(2) **実習とボランティアを通じた採用**：2021 年度には、通所施設「かたくりの花」に魅せられたボランティア生が、就職を希望し入所施設に就職した。このことは、若者採用のためには、魅力ある事業所であること、実習生やボランティア生を受入れることがチャンスになることを示している。2022 年 3 月には、静岡福祉大学と「奨学金制度」の契約を交わすことができたので、今後の、良い若手人材確保につなげたい。

3 職員の労務環境の整備

(1) **一般事業主行動計画**：女性活躍推進を目指すこの計画について、当法人では当年度も、

- ①有給休暇取得率の上昇、②育児休暇の取得推進、③ノー残業デイの実施、を掲げ、結果として、有給取得率アップ、残業時間減少になった。ちなみに最高の有給休暇取得率は100%、最低は25%。施設により取得率の差があるが、施設内でも差があった。
- (2) **改正労働法施行への対応**：①「同一労働・同一賃金」の原則を遵守した。②障害者法定雇用率は2.3%に改定されたが、当法人ではすでに達成。③時間外労働の上限規制：上限を超えることはなく残業時間は減少した。④2020年6月施行のパワーハラスメント防止法に関し相談窓口を設置したが、なお周知徹底する必要あり。⑤「中高年安定雇用」に関して、当法人では、65歳の定年を過ぎても本人が望むなら継続勤務可能。
- (3) 「シニアワーカーの集い」：開催できなかったため、次年度に持ちこしたい。

D 職場の喜びや、成長のために実践したこと

1 2021年10月1日付で、就業規則を改定。

主な改正点は、研修助成金の上限を、正職は4万円、非正規職員は3万円にする。／資格取得のための受講日や受験日は、公務扱いにする。／現在、その任務についているサビ管、主任ケアマネージャー、ケアマネの受講費や更新に関わる費用等は全て助成する等。

2 ノー残業デイの設定、有給取得や育児介護が取りやすい環境を整備。

前述、C-3「職員の労務環境の整備」を、参照のこと。

3 福利厚生規程の改正と周知

アンケートにより実態や要望等を調べ、施設によって待遇差がないよう図った。今後の改善のためにも、会計上の福利厚生費の定義を明確にし、別科目に計上しないよう定めた。

4 研修計画に基づいた職員の育成、並びに、法人内外の「研修への参加」の奨励

法人の主要計画「職員の育成」のために、各施設では年間研修計画をたて、内外の研修に参加させることが多かった。法人主催の研修内容は、資料「事業報告B-4」を参照の事。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

1 公益的取組として実施した活動

- (1) 低所得者への利用者負担軽減制度事業（聖ルカ、グレイス、さふらん、真菜、すずらん）
- (2) 障害福祉支援区分・非該当の青年2名に対し、グループホームの支援を提供（みぎわ）
- (3) 心を病む人たちの居場所「レタスクラブ」（地域活動支援センター）の運営
- (4) 相談支援事業の受託（「包括支援センターオリーブ」と「生活支援センターやまぼと」）
（人材確保など容易ではないが、地域で暮らす障害者や高齢者のニーズに応えたもの）
- (5) 「養護老人ホーム」の受託（運営面など楽ではないが、セーフティネットの役割を果たすため）
- (6) 社会福祉法人連携による生活困窮者への食糧支援（仲介施設はグレイス、真菜）
- (7) サロンに参加する高齢者の送迎（計29日／本部、聖ルカ、希望寮、Wやまぼと、さざんか、ぶどう）
- (8) 地区サロンで、介護予防教室を開催（ぶどうの木）
- (9) 地域のサロンに協力し、遊びリレーションプログラム実施（グレイス、すずらん、相寿園）
- (10) 民生委員や、小・中学生へ、福祉の話をする活動（垂穂寮、希望の家、真菜）
- (11) 地域の清掃や道路のゴミ拾い（なのはな、希望の家、野ばら、かたくりの花）
- (12) 地域防災訓練の集合場所として駐車場を提供（相寿園）

F 広報活動

- ### 1 機関紙
- 本年4月から隔月発行となった。発送も第三種郵便の利用を止め、普通郵便と宅急便に変更した。機関紙は支援者とのつながりを密にし、読者に寄付をお願いする機会にもなっているが、近年は読者の高齢化に伴い、機関紙を中止する人も増えている。かつてほど寄付に頼らなくてもよい状況になっているが、理解者や支援者を増やすことは重要なため、機関紙のメッセージ（結局は福祉事業の目的や実践）について検討する必要がある。また、近年は、人手確保の面でSNS発信の重要性も認識されているので、今後の広報活動を目的やニーズに合わせて検討し、改善していく必要もあるだろう。

2 ホームページ：改善すべき点があり刷新する予定だったが、ほとんど果たせなかった。

G 苦情や事故に関する報告

苦情解決委員会を、4/21、10/26に開催（第三者委員も参加）。また、事故解決委員会を5/25、11/4に開き、事例を共有し検討。今後の改善点や目標等を施設へ持ち帰って報告。

事業所種別	苦情（申出人「内容」）	事故内容
入所施設	家族「連絡遅い」/利用者「願いに応えない」/相談支援「ノックなし入室」等	仲間を噛む、叩く、物損、転倒、骨折薬の落下、誤薬、忘薬など
通所施設	住民「利用者の放尿」/家族「失礼な電話対応」/顧客「パンの中身」等	転倒、突進して衝突、利用者の体調急変、作業品不良、交通事故など
訪問介護	住民「駐車区域内に停車を」等	なし
相談支援&その他	なし	公用車の事故 4件

H 虐待防止と虐待事例、身体拘束について

虐待事例2件と、虐待ではと推測される事例が2件発生した。いずれも重い障害者のための入所施設で、口腔ケアなどは歯垢がないほど丁寧になされている施設でもある。落差が大きいが、不適切ケアの原因を探り、「人格の尊重」が浸透するよう改善していく必要がある。なお、もくれんには防犯カメラが設置され、希望寮も検討中。また、垂穂寮では、2月に法人主導の「改革委員会」（委員長は佐々木次理事）が発足し、活動を開始した。

事業所種別	虐待、或いは、虐待と思われる事例	身体拘束（数字は同意書の数）
入所施設 (グループホーム含む)	「垂穂寮」2件/希望寮」真相不明1件、「もくれん」真相不明1件 高齢者入所施設は、虐待事例なし。	垂穂寮18（居室錠、車いすベルト、ベッド4点柵、つなぎ服） 希望寮 ぎんもくせい3
通所施設	なし	希望の家1、コスモス1（注射時や情緒不安の時、体を押さえる）/マーガレット、かたくりの花（車いすベルト）
訪問介護	なし	なし
相談支援&その他	なし	なし

I 防災関連

1 防災訓練

安否コール訓練：毎月1回以上実施。/10月に全体防災訓練：課題を発見し、改善。

2 防災委員会の開催（5/24、9/27、3/11） 次のような事を検討し、改善を図った。

本部のBCPを、最新情報に沿って修正/本部機能がダウンした場合の代替体系を検討中。

J 環境整備に関する報告

1 主な改修や改装工事（300万円を超える工事）

施設名	工事名	工事期間	費用
かたくりの花	屋根付き通路の設置	5/17 完成	49,397,000円
やまばと希望寮	放流ポンプ槽改修	11/12~12/22	3,410,000円
やまばと希望寮	厨房改修	1/19~2022年3/31	43,010,000円

2 「デイサービスセンター真菜」と「ケアセンターさざんか」の新築工事（隣接）：

9月10日に着工し、年度末に完成。場所：坂口字シブ田2771番1 面積：2,989㎡
総工事費：314,996,000円（内、さざんかへの国庫補助金52,400,000円）

3 職場環境：ペーパーレス化への取り組み

行政との連絡や監査等は、書類の活用が大半なので、当年度も書類管理が中心になった。

4 法人全体のICT活用や、DXの学び

現状としては、支援記録入力と請求用データが連動していない。養護老人ホームでは入力はエクセル／請求はワードのルールになっており、全体の ICT 化が進まない状況である。

K 収支状況、ならびに、借入金返済状況と、寄付金状況

1 2021 年度の収支と財産状況：特記事項：コロナ関連の補助金や、処遇改善加算（前年より続く／支給ルールあり）に関するもの、2 施設建設に関する取得費や資産等を計上した。

資金収支計算書

科目	予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)
事業活動収入計	2,154,655,140	2,151,290,322	3,364,818
事業活動支出計	2,005,162,940	1,958,845,258	46,317,682
事業活動資金収支差額	149,492,200	192,445,064	△42,952,864
施設整備等資金収支差額	△415,065,000	△405,285,137	△9,779,863
その他の活動資金収支差額	△408,000	822,168	1,230,168
予備費支出	12,592,200	0	12,333,200
当期資金収支差額合計	△278,314,000	△212,017,905	△65,296,095
前期末支払資金残高	1,120,954,307	1,120,954,307	0
当期末支払資金残高	842,640,307	908,936,402	△65,296,095

事業活動計算書

科目	2021 年度決算 (A)	2020 年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
サービス活動収益計	2,145,836,185	2,196,187,231	△50,351,046
サービス活動費用計	2,083,324,658	2,064,572,954	18,751,704
経常増減差額	61,199,110	131,519,398	△70,320,288
特別増減差額	1,477,069	△742,580	2,219,649
当期活動増減差額	62,676,179	130,776,818	△68,100,639

貸借対照表

勘定科目	2021 年度決算 (A)	2020 年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
流動資産	1,043,190,287	1,255,809,720	△ 212,619,433
固定資産	3,650,145,889	3,390,268,095	259,877,794
基本財産	2,401,307,309	2,128,197,973	273,109,336
その他の固定資産	1,248,838,580	1,262,070,122	△ 13,231,542
資産の部合計	4,693,336,176	4,646,077,815	47,258,361
流動負債	233,205,048	233,939,960	△ 734,912
固定負債	581,264,108	596,505,182	△ 15,241,074
負債の部合計	814,469,156	830,445,142	△ 15,975,986
基本金	542,667,132	542,667,132	0
国庫補助金等特別積立金	644,968,972	644,410,804	558,168
その他の積立金	886,924,000	894,974,000	△ 8,050,000
次期繰越活動増減差額	1,804,306,916	1,733,580,737	70,726,179
純資産の部合計	3,878,867,020	3,815,632,673	63,234,347
負債及び純資産の部合計	4,693,336,176	4,646,077,815	47,258,361

2 借入金返済状況 (2022 年 3 月 31 日時点)

施設名	契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
なのはな	2017. 4. 25	0.46	25 年	静岡銀行	78,000,000	15,340,000	62,660,000
聖ルカ	2014. 10. 7	0.57545	10 年	静岡銀行	95,000,000	21,266,700	73,733,300
	2014. 10. 7	0.695	30 年	島田掛川信用	427,500,000	88,472,355	339,027,645
さふらん	2014. 10. 7	0.57545	10 年	静岡銀行	5,000,000	1,119,300	3,880,700
	2014. 10. 7	0.695	30 年	島田掛川信用	22,500,000	4,656,400	17,843,600

3 寄付金状況

本部宛て、計15,151,192円の寄付金が寄せられ、その内訳は次のとおりです。

- ①一般寄付金 12,087,755 円、
- ②指定寄付金（施設整備） 1,107,700 円
- ③機関紙代収入 1,955,737 円。

この他、各事業所宛、計767,082円の寄付金が寄せられました。（詳細は事業所報告を参照）心から感謝して、報告いたします。

L 主官庁との関連（主なもののみ。／詳細は、各事業所の報告を参照のこと）

- 1 2021年7月6日、「あつまりーナ」に対し、吉田町指定管理監査。
一部、備品台帳との不一致が見られたが、後日、備品が見つかり、合致が確認された。
- 2 2021年9月30日 相寿園に対する、牧之原市による指定管理者中間評価
合格基準を満たしており、適切に運営管理されているとの評価結果だった。
- 3 2021年10月21日 相寿園に対する静岡県の指導監査
改善指導事項ナシ。助言指導事項として、誤投薬を防ぐためチェックリスト等の見直し。
- 4 2017年から休止中のグレイスショートステイ事業、活動終結の方向へ（3月）
2022年7月の指定更新期を控え、人手不足未解決のため、廃止の方向で市や県と調整に。

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習生：コロナ感染予防のため、感染者の多い区域からは実習生の受け入れをしなかった。
年度末に、静岡福祉大学と聖ルカホームの間で、実習生受入れの協定が結ばれた。
- 2 小・中・高生たちの受入：近隣の学校生たちの受入も、コロナ感染予防のため中止。長年、施設で奉仕や実習をして下さった恵泉女学園中・高生の夏季訪問も、当年度も中止した。
- 3 ボランティア：コロナ感染拡大を案じ、多くの施設で受け入れを中止した。

N その他

- 1 感染等、リスク対応について
 - (1) コロナ感染：通所施設や短期入所利用者に陽性者が出たがクラスターには至らなかった。
 - (2) コロナワクチン投与2回目と、3回目の終了：ご利用者と職員全員に対し実施した。
 - (3) システムダウンのリスク：不審なメール送信はあったが、システムダウンはなかった。
- 2 外国国籍の働き人について
 - (1) 初めてのEPA生受入れ：インドネシア人女性、セプティアンニティアスさん、2021年6月14日、当地に到着。17日より聖ルカホームで理念の学び等をした後、仕事開始。
 - (2) 外国国籍の働き人が増加したが、職員との関係も、仕事面でも順調。
高齢者施設（聖ルカホームとグレイス）で、韓国、フィリピン、中国国籍の人が働き始めた。日本滞在歴が長い、専門的知識を持つといった理由で、順調に働いている。
- 3 高齢化した障害者に関する定期的話合い
予定の話し合いはなかったが高齢者施設への移行あり。（垂穂寮：3名、もくれん：3名）
- 4 オリーブ園の運営、並びに、農福連携に関する定期的話合い
コロナのためオリーブ祭りは中止。農福連携事業は、主体的推進者がいなくて頓挫した。
- 5 グループホーム住人（支援が困難なご利用者）へのより良い対応について
関係施設による検討会を通して適切な日中活動先が定まり、当人はかなり安定してきた。

以上

評議員選任解任委員会

開催年月日	出席者				議事決定事項
	委員	ZOOM	理事	ZOOM	
2021/6/1	4	-	1	-	評議員の選任について

評議員会

開催年月日	出席者				議事決定事項
	評議員	ZOOM	役員	ZOOM	
2021/6/19	9	5	理事 1 監事 2	-	7名の理事候補者の承認について／2名の監事候補者の承認について／2020（令和2）年度事業報告について、並びに、2020（令和2）年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録承認の件／社会福祉充実計画の承認について

理事会

開催年月日	出席者				議事決定事項
	理事	ZOOM	監事	ZOOM	
2021/5/29	7	1	2	-	監事監査報告について／2020（令和2）年度事業報告（案）並びに決算（案）／社会福祉充実計画について／評議員選任・解任委員会の次期委員の選任について／次期評議員候補者の推薦について／評議員選任・解任委員会の招集について／理事及び監事候補の推薦について／2021年度に関する役員賠償責任保険の契約について／定時評議員会の招集について
2021/6/19	7	1	2	-	理事長の選定について／招集権者の選定について／給与規程の賞与支給基準率の変更について／パートタイマー等の就業規則に資格取得（登録）手当を設けることについて
2021/9/18	7	2	1	1	監事監査報告に対する回答について／「（仮称）ケアセンターさざんか」及び「デイサービスセンター真菜」の建設工事契約について／ケアセンターさざんかの新しい名称について／（仮称）ケアセンターさざんか及びデイサービスセンター真菜建設工事による基本財産の増加（建物2棟および土地1筆）について／やまばと希望寮、厨房設置のための改装工事と浄化槽改修工事、並びに、入札に関して／やまばと希望寮厨房設備整備、及び浄化槽改修による基本財産増加について／経理規程に、「花もも拠点区分」、および、「ケアセンター花ももサービス区分」を追加することについて／「法人本部拠点区分」、「真菜拠点区分」、「花もも拠点区分」の、積立金・目的外取崩について／第1次補正予算案及び「花もも拠点区分」当初予算案について／給与規程（第23条通勤手当、第30条資格取得手当、別表5扶養手当、宿直手当、別表6時間外手当）の変更について／就業規則（第34条年次有給休暇、第37条特別有給休暇、第38条特別休暇）の変更について／正規職員の就業規則変更に伴う、パートタイマー等の就業規則の変更（第27条その他の休憩、休暇等／第57条資格取得手当）／最低賃金アップに伴う時給の変更と、手当の変更（別表「加算」、並びに、別表5「パートタイマー等の手当」）
2021/12/18	6	2	2	-	定期監事監査報告について／ケアセンターさざんか（旧成人寮）の建物の取り壊し及び借地返還について／さざんか、真菜に関する基本財産の減少について／やまばと希望寮の厨房改装工事に関する入札、並びに契約について／第2次補正予算案について／「施設設備整備積立金（積立資産）」の創設に関する経理規程の変更と「施設整備等積立金（積立資産）」の科目振替について
2022/3/19	7	2	2	1	2022年度に関する役員賠償責任保険の契約について／定期監事監査報告に対する回答について／相寿園拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて／ぎんもくせい拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて／「福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金」支給に伴う三つの案件／給与規程第23条、並びにパートタイマー等の就業規則別表5と別表6、並びに、職員紹介制度規程の変更／退職金支給規程の変更について／2021年度第3次（最終）補正予算案について／管理者人事について／グレイスショートステイの廃止について／経理規程の変更について／育児・介護休業等に関する規程の変更について／2022年度事業計画案、予算案について／給食業務委託業者との契約内容の変更について／やまばと希望寮厨房改修工事委託業者の選定、および、契約について

2021 年度牧ノ原やまばと学園／活動内容や在籍者数、責任者名等 (2022 年 3 月末時点)

事業所名	責任者名	内容や種別	定員	在籍	職員
本部事務局	板倉 仁	事務・財務の統括			5
やまばと希望寮	高杉 和成	障害者支援施設	30	30	30
垂穂寮	大畑 彰弘	〃	50	43	42
ケアセンター野ばら	大畑 彰弘	生活介護	20	19	14
ケアセンターさざんか	桑原 裕子	〃	20	16	13
ケアセンターかたくりの花	渡邊 千恵子	〃	20	21	15
ケアセンターマーガレット	河本 敦子	〃	20	21	12
レタスクラブ	河本 敦子	地域活動支援事業		不特定	3
ワークセンターカサブランカ	澤渡 繁	就労継続支援 A 型	15	12	5+12 ★1
ワークセンターやまばと	田澤 岳大	就労継続支援 B 型	20	20	8
ワークセンターコスモス	石神 知之	〃	20	18	10
ワークセンターなのはな	西村 美恵子	〃	30	29	12
ワークセンターあさがお	榛地 裕子	〃	20	20	12
ワークセンターさくら	河本 敦子	〃	20	23	7
ワークセンター希望の家	高松 祐輔	〃 (主たる事業所)	20	16	9
ワークセンターふれあい	高松 祐輔	〃 (従たる事業所)	20	13	6
みぎわ	大畑 彰弘	共同生活援助	15	15	11
わかば	高杉 和成	〃	10	10	11
もくれん	高杉 和成	〃	10	10	15
生活支援センターやまばと	田村 貴子	相談支援事業			8
聖ルカホーム	大石 幸	特別養護老人ホーム	70	70	79
グレイス	山脇 世津子	地域密着型特養ホーム	29	29	31
相寿園	松田 正幸	養護老人ホーム	50	32	23
ぎんもくせい	片山 喜之	〃	50	37	23
デイサービスセンター真菜	吉田 陽子	通所介護	35	日替り	23
すずらん	山脇 世津子	認知症対応通所介護	12	日替り	8
地域包括支援センターオリーブ	鈴木 ひろみ	調査、相談、権利擁護等			8
コミュニティセンターぶどうの木	神谷 美代枝	介護予防拠点施設		日替り	4
ライフサポート さふらん	大石 幸	訪問介護事業			14
居宅介護支援事業所シャローム	山脇 世津子	ケアプラン作成所			1
やまばと診療所	赤堀 由砂	保険医療機関			2
合 計 ⇨				504	476

★1 カサブランカご利用者 (15名)は、本部と雇用契約を結んでおり、職員としても計上。

職員育成、並びに、法改正などへの対応のための研修（対象は法人職員）

日時	研修名	講師	内容	参加者数
4/1	第1回新人オリエンテーション	(理事長) 長澤道子他	礼拝・理念と歴史 等	18
4/6	決算研修	杉山会計 萩原信宏 氏	決算手続き	
5/22	新年度全体職員研修	(理事) 佐々木炎	「人に寄り添う、地域に寄り添う」 Zoom	150
6/15.22	コミュニケーション研修(初級)	(理事) 伊藤 巧	コミュニケーション研修	18
6/30・7/19	スーパービジョン研修第1回	日本女子大学教授 久田則夫氏	スーパービジョンの意義と目的	53
7/13	～働き方改革～法改正を踏まえた今後の労務管理	社労士 小山圭子 氏	高年齢雇用安定法改正、育介休業法改正、副業・兼業ガイドライン 等	43
8/6・8/25	スーパービジョン研修第2回	東洋大学教授 吉浦 輪 氏	利用者処遇にかかると事例検討 Zoom	34
9/14	スーパービジョン研修第3回	聖隷クリストファー大学教授 横尾恵美子氏	職員共働や指導にかかると事例検討 Zoom	21
10/8・10/27	スーパービジョン研修第4回	東洋大学教授 吉浦 輪 氏	利用者処遇にかかると事例検討 Zoom	33
11/2	第2回新人職員オリエンテーション	(理事長) 長澤道子他	礼拝・理念と歴史 等	26
11/5	スーパービジョン研修第5回	聖隷クリストファー大学教授 横尾恵美子氏	職員の育成・指導に関する事例検討	21
12/3・12/22	スーパービジョン研修第6回	東洋大学教授 吉浦 輪 氏	利用者処遇にかかると事例検討	34
1/27	労働関連法改正	社労士 小山圭子 氏	本年度の労働関連法改正事項	21
1/29	スーパービジョン研修まとめ(主任等)	(理事) 佐々木炎	S V研修纏め及び主任職等として期待される働き	24
3/24	スーパービジョン研修まとめ(管理者)	(理事) 佐々木炎	牧ノ原やまばと学園・施設長に期待される働き	20

2021（令和3）年度事業報告

障害者支援施設
垂穂寮

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）

隣接する 3 事業所間の連携については、新型コロナの感染予防を理由に行事については実施しなかった。ただし、業務応援については、野ばらへ 3 か月の職員応援、みぎわへ夜勤職員兼務を 3 名が 49 回実施した。

個別支援計画、モニタリング、アセスメントを「ケアカルテ」に完全移行し、事業所内のパソコンからも閲覧できるようになり、情報をより共有しやすくなった。食事や入浴、日課などの記録入力も定着出来てきている。ただし、請求管理までには至っていない。

1 月と 3 月に虐待と思われる事案が発生し、利用者にとって安全で安心な生活環境を提供、凡事徹底ができていたとは言えない。3 月から法人主導による「垂穂寮改革委員会」の下で運営を進めた。

2 理念に基づいたサービス提供

1 月に起きた虐待の疑いがある事案に関連して行った職員アンケート結果から、様々な理由により、ひとりひとりのご利用者としっかり向き合うことができていなかった。また、かけがえのない大切な人として重んじられていなかった。

行動障害のある利用者について、ケース検討会等を通じてその背景を探り、環境調整を行った結果として、問題行動が減少できたケースもあった。

コロナ禍ではあるが、緊急ショートステイの受け入れについては、できる限り、積極的にその要望やニーズに応えることができた。

3 法人の当年度重点計画との関連

理念の浸透と実践については、ともに生きる、私たちの願いを朝礼や会議の参加者で唱和し、確認の場とした。

職員の育成に関連して、新たに社会福祉士に 1 名、介護福祉士に 2 名が合格した。支援部門の福祉士国家資格取得率は 38%、強度行動障害支援者養成研修（基礎）履修率は 25%となっている。また、垂穂寮改革委員会に副主任格職員以上 11 名が参画し、運営プロセス等について佐々木炎委員長から学ぶ機会を得ている。

職場環境の整備については、ICT 化に関連して、システム内のヒヤリ・事故報告書を法人様式に変更し、規定に合わせた対応とした。また、情報共有を目的として、インカム導入について検討し、サンプル試用を繰り返した。ただし、導入には至っていない。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1 日平均	利用率
施設入所支援	50	43	-3	365	16311	44.7	89.4%
生活介護	50	45	-3	269	11429	42.5	85.0%
ショートステイ	4	7	+4	365	909	2.5	62.3%
日中一時支援		0			0		

2 施設入所支援利用者障害程度区分

区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	1	3	39	43

3 職員状況

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	2	32	3	1
常勤換算人数	0.8	(0.1)	1.1	25.7	2.0	1
増減	0	(0)	0	+0.1	+0.1	0
	調理員	事務員	業務員			合計
実人数	4	1	(3)			43
常勤換算人数	3.4	1	(0.3)			35.9
増減	0(+1-1)	0	(0)			+0.2

4 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は 3441 時間。月平均で 286.7 時間であった。1 人当たりの月平均は 6.7 時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間 19795 時間、1 か月平均 27.5 時間であった。

有給休暇取得状況は、全体で 47.6%の取得率、100%（4 名）、最低は 25%（9 名）。

5 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

各ケース会、チーフ会、ケース検討会、寮全体会を毎月又は毎月近くに開催した。また、定期開催として運営会議、事務所会議、を開催した。

内部委員会として、虐待防止委員会、給食委員会、研修委員会、感染症対策委員会、身体拘束委員会、垂徳寮改革委員会を開催した。

外部委員会として、法人関連の虐待防止、防災、苦情、研修に関する委員会に出席した。

その他として、法人内として経営会議、法人外として行政（県、市）の自立支援協議会や強度行動障害関連、地域のケース会議、社会福祉協議会評議員会、県知的障害者協議会、志太榛原施設連絡会等に出席した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

権利擁護の視点から、特に鍵の使用による身体拘束の解除に向け、日中の仕切り扉の開放や、その扉や居室の鍵を利用者ご自身で開けられるものに変更、一部エリアではクレセント錠の二重ロックの廃止など、ご利用者が棟内を自由に行き来できる機会が増えた。

日課については、前年までは隔日で行っていた入浴がその日の職員状況により実施できないことも往々にしてあった反省を踏まえ、入浴実施曜日を固定した（男性は火木土、女性は月水金）。それにより、予定していた入浴が実施できないといった日が前年に比べ大幅に減らすことができた。

また、業務の見直しを図り、出退勤時間の変更や削れる業務は削ることでよりご利用者の個別支援に時間を割くことも一部で実現し、特に午前中の散歩に参加できる機会が増えたこと、あるいはそれまで殺風景であった風棟（行動障害の多いご利用者の生活エリア）にスノーズレンルームを作ったり、大きなクッションをいくつも置いたりしながら、ご利用者の癒しや快適につながるような取り組みを行った。また、各エリアにある大型テレビにネット環境を整備し、YouTube などがいつでも見られるようになった。

行事については、昨年同様コロナ禍の中であったため、ご家族や地域住民との交流はできない中での実施であったが、例年通り通常とは違う食事提供や催し物等で楽しく開催することができた。

D 職員の喜びや成長のための実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

朝礼や職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせを行った。また、毎月の月間目標を設定し、全職員の多くが達成できるまで続けた。加えて、虐待防止セルフチェックを年 2 回実施した。

施設長面談をリーダー職員は計 4 回、その他の職員は計 2 回実施した。

2 楽しい職場づくり、チームワークの形成について

施設内研修については、虐待防止、食中毒、感染症、事故防止、行動障害、身体拘束とそれぞれの係や委員会としてその責務を担っている職員が主催となり、研修を受ける立場の職員だけでなく、伝える側の職員の成長にもつながった。また、課題の共有、討論することによるチームワーク形成の目的もあり、グループワークも混ぜながら行った。

行事については、各ケースチームでそれぞれの行事（秋祭り、クリスマス会、新年会）の準備や進行を任せることで、各ケースチームのより良い協力関係が築けるように実践した。

3 研修報告

外部研修として、防火管理者、接遇マナー、実習指導、強度行動障害支援者養成、権利擁護、床ずれ、スノーズレン研修等に 13 名の職員が参加した。

法人内研修として、グレイスに介護体験、新年度研修、新人オリエンテーション、SV 研修などに 9 名の職員が参加した。

事業所内研修として、研修委員会が中心となって、自閉症、食中毒、事故防止、嘔吐処

理、身体拘束、虐待防止、新型コロナ初動研修等に1研修に平均34名の職員が出席し開催できた。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

島田市社会福祉協議会等を通じて、大草団地の買い物支援への協力について関係機関と協議している。また、第3地区民生児童委員による花植え、草取りが行われた。

F 家族との連携、交流、連絡など

家族だよりを毎月発行して、情報提供に努めた。内容は担当から利用者の最近の様子、ケースチームごとに写真、各部門からの連絡事項、苦情、虐待の恐れのある事例に関する報告も掲載した。また、相談部門から事故については状況により家族報告を行った。

保護者会奉仕作業や総会が行われ、事業所から連絡事項を伝えた。

個別支援計画に関する説明を行い、支援内容伝えた。また、家族アンケートを実施し要望等の把握に努めた。

G 苦情とその対応に関する報告

計1件の苦情を家族から頂いた。家族に対する事故報告が遅いのではないかという内容であった。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故162件、ヒヤリハット141件、虐待2件、身体拘束18件であった。内訳は、事故は嘔みつきや叩くなどの他害行為、菓の落下・忘菓・飲ませ間違い事故、転倒事故等、ヒヤリハットは他害未遂行為、転倒、無断外出等、身体拘束は居室施錠、車いすベルト、ベッド4点柵、つなぎ服となっている。

虐待については以下の通りである。

- ① 2022年1月6日、トイレの立ち便器から立ち去らないご利用者の頭を職員が小突き、近くにあった衝立にご利用者の眼尻がぶつかって4針縫う結果になった。虐待行為をした職員は夜勤勤務から外し、養護老人ホームで実習した後、次年度からデイサービスセンターへ異動。垂穂寮では、2022年3月に本部主導の「垂穂寮改革委員会」（委員長は佐々木炎理事）が立ちあがり、改善に関する取組みを開始。
- ② 2022年3月22日、女性利用者が男性利用者の性器を触っていたのを見て、職員が、男性利用者の手を持って女性利用者の胸に触らせた。そうすれば女性利用者が嫌がって男性を離れるだろうと考えたとのこと（本人の弁明）。この職員は自主退職となった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

毎月1回、日中または夜間を想定した火災避難訓練を実施した。また、3施設合同の防災委員会の開催し、防災倉庫の備蓄について点検を行った。

家族から土砂崩落の心配があり、行政に対して対応をお願いした。

J 環境整備（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2021年度	2020年度	増減
サービス活動収益計	276,379,228	289,001,955	-12,622,727
サービス活動費用計	254,178,636	253,448,980	729,656
経常増減差額	22,292,797	35,892,485	-13,599,688
特別増減差額	-16,992,584	-26,500,352	9,507,768
当期活動増減差額	5,300,213	90,392,133	-4,091,920

※サービス活動収益の内、寄付金収益（1,658,652円）

2 借入金償還状況

なし

L 主務官庁に関連した報告

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生については、1 大学から 2 名、法人内事業所から 2 名の受け入れを行った。

ボランティアについては、調理に毎月 15 日間、支援に毎月 4 日間の 2 名を受入れた。

N その他

新型コロナウイルス感染予防を理由に、まん延防止等重点処置期間中は日中活動先の利用停止、年間を通して、面会、外出、外泊制限を継続した。

診療所の医師、看護師の協力の下で、新型コロナワクチンを希望する利用者並びに職員全員に 2 回実施した。

1 月の虐待に恐れのある事案の発生に伴い、3 月に垂穂寮改革委員会が法人本部に立ち上がり、佐々木炎委員長のもと垂穂寮職員 11 名がメンバーとなり、4 つ（①人材マネジメント・人材育成、②ケアマネジメント・業務改善、③コミュニケーション・職員関係推進、④環境整備）のプロジェクトに分かれて、職員への意見確認や静岡福祉大学教員、障害者部門部長等のアドバイスを得ながら進めている。

2021（令和3）年度 事業報告

障害者支援施設
やまばと希望寮

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）

本年度も 2020 年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、家族参加の行事や面談を自粛・縮小することになり、家族・後見人との連携が困難な年度になった。

虐待防止に関しては、毎月チェックリストを実施することで、虐待に関しての意識と早期発見し虐待の芽を摘み取るための取組を行ってきたが、不適切対応と疑われる事案が発生。聞き取りを行う中で、孤立している職員も存在していることがわかり、施設職員の配置や相談する体制に不備があることが明らかになった。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

毎月の施設全体会議で「サービス提供指針」の輪読・読み合わせを実施。法人全体研修に多くの職員の参加させることが実行できていないが、研修の録画を活用することで理念を学ぶ機会を増やすことが出来た。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

(1) 職員の育成

強度行動障害支援者養成研修への参加を昨年度から引き続き行い、施設内研修で振り返りを実施し、専門性の向上に努めた。リモート環境を利用することで、個別の研修を計画・実行した。

福祉専門資格に関しては、3 名介護福祉士に合格をした。

(2) 職場環境の整備

以前よりタブレットを使用して、日常の様子を記録を入力し、生活記録、通院記録等施設の情報をほのぼののシステムを利用して管理しているが、この状況からペーパーレス、ICT化は進んでいない。防犯・監視カメラ、モニターの設置を検討したが導入には至っていない。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1 日平均	利用率
施設入所支援	30 名	30 名	0	365 日	10,708	29.3 名	97.6%
生活介護	30 名	31 名	0	269 日	7,746	28.7 名	95.6%
短期入所	5 名	3 名	-7	365 日	432		
日中一時支援	9 名	2 名	-6	365 日	14		

2 施設入所支援利用者障害程度区分

区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0 名	0 名	3 名	27 名	30 名

3 職員状況

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	1	1	23	1	1
常勤換算人数	0.5	1.0	1.0	19.3	1.0	1.0
増減	0	0	0	1(+0.1)	0	0
	事務員	補助員				合計
実人数	2	1				31
常勤換算人数	1.25	0.6				25.65
増減	0	0				1(+0.1)

4 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	1,437 時間	最高残業時間	268 時間	有給休暇取得率	57.4%
-------	----------	--------	--------	---------	-------

5 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

寮全体会議、各ケース会を毎月開催、主任者会・チーフ会については施設環境課題や支援体制、困難事例、職員の育成、虐待防止等について議論・検討し月2回開催した。

施設内では、給食委員会、給食検討会、感染症委員会、避難訓練後の防災委員会を開催した。

法人内の虐待防止、研修、編集、防災、給食に関する委員会に出席した。

その他に行政の自立支援ネットワーク、静岡県知的障害者福祉協会の開催する会議、志太榛原地区施設連絡会に出席した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

利用者の高齢化や体力の低下により、一人ひとりの支援に当たる時間も増え、毎日の散歩が困難になり運動量の減少が進み、希望寮ホールで過ごす利用者が増えています。その利用者との関り・楽しみを増やす取り組みで午前中に「生き生き活動」と称して、花の水やり、日光浴、体操等無理なく動ける活動を実施してきました。

コロナ禍で外出が困難となり、特別プログラムの企画もドライブとテイクアウトでの食事を組み合わせた企画となり、人流を避けながら、特別な1日を楽しんできました。

年間の行事も極力中止にはせず、家族・地域の方々が参加しない縮小した形で開催。季節の移り変わりを意識しながら行事を実行しました。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

毎月の会議で、「私たちの願い」「サービス提供指針」を読み合わせてきました。毎月、「虐待の芽チェックリスト」実施し、その統計を取り支援の姿勢の振り返りを続けてきました。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

主任会、チーフ会で施設課題について話し合い、全体会議を利用して改善点を検討し職員全体で施設を支えている意識を高めた。毎月のケース会議だけでなく、施設行事・小外出等の行事をケースで担当し企画・実行することでケースの結束を強くした。

3 研修報告

障害特性の知識向上、重度加算取得を目的とした強度行動障害支援者養成研修の参加を進め正規職員全員が受講した。

虐待防止・権利擁護研修を受講させ、指導を行う立場の人材育成に取り組んだ。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

毎月開催される地区班長常会に出席。坂部ふれあいサロンの送迎を行った。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

新型コロナウイルス感染防止の観点から、ご利用者と家族の面会を制限あるいは限定し、例年行っている奉仕活動や個別面談を中止・縮小した。また、保護者総会は5月29日に会場を坂部区民センターとして、感染防止に配慮し開催した。

G 苦情とその対応に関する報告

ショートステイ利用者から浴後の更衣中に男性がノックもせずに入浴場に入って来たことを支援センター相談員が聴き取り、苦情として報告があった。苦情が伝えられた当日に本人に謝罪し、入室前のノック・声掛け等の基本的マナーの徹底、利用者入浴中の看板等を利用し脱衣場を使用していることを知らせる。脱衣場の扉を開けても視界を遮るパーティションを設置した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	62	ヒヤリ	28	虐待	1	身体拘束	4
----	----	-----	----	----	---	------	---

※虐待について：朝食時に希望寮ホールで、何かを叩く音と同時に、短期入所者の「痛い」という声に職員が振り向くと、バインダーを持って立っていた職員がいた。この職員はワクチン接種3回目以降体調を崩し1ヶ月半休む。復職時に異動願いが出たが受け入れられなかった。この件に関する調査が行われていなかったため、法人経営会議メンバーによる調査会を開くが、真相は不明。

※身体拘束については：居室施錠、車いす施錠、ベット4点柵となっている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月第3水曜日に施設内避難訓練を実施、訓練後に反省を含め防災委員会を開催した。9月に炊出し訓練を実施したが、救急救命訓練、消防立会避難訓練は新型コロナウイルスの感染防止、消防署等の都合により中止した。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

工事名	完成日・工事期間	費用
放流ポンプ槽改修工事	11月12日～12月22日	¥ 3,410,000
自動火災報知機入れ替え工事	12月13日～12月15日	¥ 2,046,000
ガス設備(バルクタンク)設置工事	3月19日	¥ 1,782,550
電気設備更新工事	3月20日	¥ 2,640,000
厨房改修工事	1月19日～3月31日	¥ 43,010,000

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告(事業活動)

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	192,197,561	191,912,476	285,085
サービス活動費用計	165,976,817	157,321,268	8,655,549
経常増減差額	26,466,476	35,267,745	△8,801,269
特別増減差額	△8,673	△32,000,007	31,991,334
当期活動増減差額	26,457,803	3,267,738	23,190,000

※サービス活動収益の内、寄付金収益(455,000)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告(実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習生の受け入れは感染症対策を学校側と確認し、県内の学校のみ実施した。
- 2 日赤奉仕団等の団体での活動については、新型コロナウイルス感染防止の観点から活動実施直前に感染状況を確認し活動の判断をした。

N その他(監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

新型コロナウイルス感染予防の観点から、緊急事態宣言・まん延防止措置の期間中は日中一時支援を中止し、短期入所も緊急を要する場合にのみ限定し、日中活動先の利用をされる方に関しては利用停止の判断をした。

2021（令和3）年度 事業報告

共同生活援助
わかば・もくれん

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）

3名のご利用者が高齢者施設への移行となり、特性に合わせた生活拠点への移行に取り組むことが出来た。

障害特性の知識を深めることに関しては、会議後半時間の活用を計画していたが、十分な研修を実行できなかった。ご利用者に対する不適切対応もあり、人権擁護や虐待防止の学び等も不足していることを露呈した結果となった。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

理念を理解する機会でもある法人全体研修への参加者も少なく、施設会議での「サービス提供指針」の輪読も実施した月ばかりではなく、法人の理念を感じ取れる体制にすることが出来ていなかった。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

（1）職員の育成

夜勤専門員の補充等が出来、徐々に人材の補充を進めてきたが、障害特性を学ぶ取り組みと並行して実施することが出来なかった。年度後半にリモート環境も整ったが、環境を活用した研修参加を計画・実行までを実現できなかった。

（2）職場環境の整備

施設老朽化に伴う、エアコンや受水槽ブレーカー等の交換工事を行った。ペーパーレス化にも取り組むべく検討を行うが、現在の施設環境ではタブレット等導入での業務効率化は望めないと判断した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	19	-4 ・ +3	365	7069	19.4	96.8%
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	2	2	9	6

※ 1名の利用者が逝去（もくれん）、3名の利用者が高齢施設に移行（もくれん）、新規利用者が3名入所（もくれん）。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1名	1名	8名	16名	1名	27名
常勤換算	0.5名	1.0名	6.4	5.1	0.4名	13.4名

※施設長は希望寮と兼務、事務員はケアセンターさざんかと兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	472.5時間	最高残業時間	226時間	有給休暇取得率	58.8%
-------	---------	--------	-------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
毎月	防災委員会	防災委員会	訓練の評価、避難マニュアルの検討 等
毎月	給食委員会	給食委員他	利用者の食事に関することについての検討 等
毎月	施設検討会	正規職員他	施設内課題、環境整備等について検討(11月から実施)
9/27	法人防災会議	杉森	施設内BCPの理解・改善等について
3/11	法人防災会議	杉森	法人BCP、施設内BCPの理解と連携について

C 利用者の喜びのために工夫したこと

利用者自身が望む生活を反映していくために、利用者自身が出来ることの確認を行い、日常生活の出来ることを増やす試みをした。

季節感を感じる行事開催を予定したが、新型コロナウイルス感染を予防の観点から、4月25日遠足（わかば）、11月22日サンマバーベキュー（もくれん）の各施設1回の行事のみ行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

(1) 毎月の全体会議でサービス提供指針を読み合わせた。

(2) ヒヤリハット報告の書式の変更や、伝達事項の周知の方法について変更し、施設内での支援。業務の統一に取り組んだ。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

施設内検討会を毎月実施、施設で起きている課題等について検討し、決定事項に関しては全体会議で周知し、多くの意見を取り入れる必要性の高い事案については会議内での検討を行い、統一した支援等行えるよう努めた。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
法人内研修	5/22	新年度法人全体研修	3	11/2	新人リエンション	1
	5/24	防災研修	4			
		SV研修(3回)	1			
生活ケア部会	1/18	フレッシュマン研修	2			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

施設から地域に向けての活動等に関して、計画・実行できていない。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

1 年間2回実施予定の「保護者会」は中止。通院等に関しても新型コロナウイルス感染予防の観点から家族の協力要請を自粛した。

2 家族に参加していただく行事は感染予防の観点から中止し、家族との連絡は電話や書面が中心となり、対面での支援計画等の説明も見送らせて頂いた。

G 苦情とその対応に関する報告

法人苦情委員会で取り上げられた苦情を自身の施設でも起きるか塗制がある苦情と考え、全体会議で話し合う機会を持ち、互いに注意しあえるよう努めた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	8	ヒヤリ	1	虐待	1	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

もくれんにおける不適切なケア：ご利用者の太ももや腹部に外傷（あざ）を発見。時々発見されていたようだが、理事長まで報告することもなかった。対応が遅れたが、牧之原市に通報し、翌日から調査に入ることになった。真相は把握できず不明のまま。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

ご利用者が通所しない土・日曜日に避難訓練を実施。近隣施設・利用者通所施設等との合同訓練は実施しなかった。

3月23日、牧之原市からの依頼により、土砂災害警戒区域であるわかばの「土砂災害避難確保計画」を提出した。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

特になし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増減
サービス活動収益計	67,251,581	68,920,935	△1,669,354
サービス活動費用計	65,754,199	63,477,029	2,298,170
経常増減差額	1,507,573	5,538,080	4,030,507
特別増減差額	0	△5,000,000	5,000,000
当期活動増減差額	1,507,573	538,080	969,493

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 50,000）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

新型コロナウイルス感染症要望の観点からボランティア受け入れを自粛した。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

もくれん利用者の身体から痣が発見された件は、事故の追及を怠ったことも含め、施設の責任は非常に重い。今後の虐待防止・人権擁護に関しての学びだけでなく、職員の配置、施設環境の整備にも関係者の意見も参考にして2度とこのような事態を繰り返さない環境・体制にしていくことが急務。共同生活援助 わかば・もくれん だけで課題解決・修正を考えるのではなく関係機関の協力も得て利用者が安心して住みやすい場所を作らなければならない。

2021（令和3）年度事業報告

共同生活援助事業所
みぎわ

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）
利用者の呼称については、「〇〇さん」と呼ぶことを意識して行った。しかしながら、継続して取り組みが必要である。
他関係機関との連携については、小まめな連絡をこちらから行うことができた。また、家族等からの苦情については、迅速に対応をして関係の改善を図った。
感染症予防については、基本的な感染予防を意識した結果、予防することが出来た。
職員の専門性の向上については、リモート研修や他施設の実習を実施した。全職員の専門性の向上についての取り組みが不十分であった。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
あおば棟利用者と毎月 1 回ミーティングを実施し、利用者との意見交換の場を設けた。
- 3 「法人の当年度重点計画」関連した活動報告
理念の浸透と実践については、ともに生きる、私たちの願いを職員会議の参加者で唱和し、確認の場とした。
職場環境の整備については、ICT 化に関連して、システム内のヒヤリ・事故報告書を法人様式に変更し、規定に合わせた対応とした。記録については活かしきれていない。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1 日平均	利用率	
15	15	0	365	5379	14.7	98.2%	
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
3	0	0	4	4	3	1	15

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	1	3	12	1	18
常勤換算人数	0.1	0.1	2.9	3.8	0.5	7.4

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は 381.3 時間。月平均で 31.8 時間であった。1 人当たりの月平均は 2.9 時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間 115.8 時間、1 か月平均 9.6 時間であった。
有給休暇取得状況については、全体では 78.3% の取得率、最高は 100%（4 名）、最低は 30%（1 名）であった。

4 職員会議、委員会、外部委員会

職員会議を感染予防に配慮しながら計 5 回開催し、重要事項の連絡等を行った。
外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情に関する委員会に出席した。また、隣接事業所との連携を目的として防災、給食委員会に参加した。
その他として、隣接事業所との連携を深めるために、防災、主任の会議を行い、必要事項の情報交換を行った。また、行政の自立支援協議会や地域のケース検討会に参加した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

隣接する施設の余暇設備（通信カラオケ）を利用して、余暇時間の充実を図った。
季節の行事（クリスマス会、節分）では、テイクアウトメニューの利用等を活用した。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムについて
職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせを行った。
また、生活ケア部門のフレッシュマン交流会や他事業所実習に計 4 名の研修が参加した。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
施設長面談をリーダー職員は計 4 回、その他の職員は計 2 回実施した。また、比較的年

配の職員にも伝わりやすいように、情報共有を目的として情報掲示板を設置した。

3 研修報告

外部研修として、マナー研修、成年後見制度講座、虐待防止講演会、BCP研修に延 5 名が参加した。法人内研修として、新年度研修、コミュニケーション研修、SV研修、他事業所実習に延 9 名の職員が参加した。事業所内研修として、職員会議の際に法人理念、虐待に関する学び等を行った。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

島田市社会福祉協議会等を通じて、大草団地の買い物支援への協力について関係機関と協議している。また、第 3 地区民生児童委員による花植え、草取りが行われた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

家族便りを毎月発行し、情報提供に努めた。また、苦情に関連して、意見交換会を 1 度実施した。加えて、初詣に 1 家族だが協力を頂いた。

G 苦情とその対応に関する報告

計 4 名の苦情を頂いた。2 件は一般就労先の企業から連絡不足等であった。2 件は家族から、家族便りに関すること、支援内容や環境等に関することであった。1 度は計画相談を交えて説明の機会を持った。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故 10 件、ヒヤリハット 18 件、身体拘束 28 件、虐待 0 件であった。事故については転倒が最も多かった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

コロナ感染対策による中止を除いて、計 8 回の防災訓練を実施した。また、3 施設合同の防災委員会の開催し、防災倉庫の備蓄について点検を行った。
家族から土砂崩落の心配があり、行政に対して対応をお願いした。

J 環境整備に関する報告

みぎわ棟の外壁と屋根改修工事を 2,475,000 円（税込）で実施した。

K 収支状況、並びに、借入金返済状況

1 収支状況（事業活動）

科目	2021 年度	2020 年度	増減
サービス活動収益計	41,664,261	41,275,975	-388,286
サービス活動費用計	41,672,036	36,161,948	-5,510,088
経常増減差額	106,744	5,594,053	5,487,309
特別増減差額	-2,000,000	-5,000,000	-7,000,000
当期活動増減差額	-1,893,256	594,053	-1,299,203

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 20,000 円 ）

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁との関連した報告 なし

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生の受入れ実績はなし。ボランティアについては、家族による草取り 2 名、初詣付添 1 名のボランティアあり。

N その他

3 回の新型コロナワクチン接種を実施した。また、土日、祝日の昼食に、外部配食サービスの利用開始した。

2021（令和3）年度 事業報告

（事業種別）生活介護
（事業所名）ケアセンターさざんか

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
 - ・法人の協力を得て坂口地区に新築移転することが出来た。
 - ・利用者の高齢化、死去等で退所者数が多く新規利用者は少なかったため収入が大幅に減収となった。
 - ・困難ケースの事例検討会を支援センター、希望寮と共に学ぶ機会を得ることが出来た。
 - ・介護負担軽減のためのパワースーツは現場にそぐわなかったために使用を断念した。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
 - ・フードバンクへの協力やサロン送迎等地域貢献に努めた
 - ・利用者が自己選択、自己決定がしやすいように視覚的、感覚的な情報を使用し提示するよう努めた
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - ・毎月の支援者会議内で「サービス提供指針」を読み合わせ支援の振り返りを行った。
 - ・法人研修にて主任対象の研修、正規職員には資格取得など支援力向上を図った

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	16	-4	256	3745	14.6	73.1%
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	3	7	6

※

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	合計
実人数	1	1	10	1	1	13
常勤換算	0.3	0.7	6.73	0.57	0.3	8.6

※

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	192	最高残業時間	6	有給休暇取得率	77.3%
-------	-----	--------	---	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況 月によって件数が増減する（行の増減を）

開催日	種類	参加者	内容
毎月第3金曜日	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
隔月第1火曜日	法人編集委員会	桑原	機関紙原稿検討
2回	法人防災委員会	栗田	BCP作成
毎月第2水曜日	生活ケア部会	桑原	事業所間の情報共有 事業所報告
毎月第2水曜日	給食委員会	松本	食事内容 摂取状況 提供方法等 調理員、栄養士との意見交換情報共有
毎月第3木曜日	給食検討委員会	桑原	給食全般について委託業者、栄養士との意見交換、情報共有
5/25・7/27・11/30・3/25	自立支援ネットワーク	桑原	地域課題の検討及び情報共有

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ・希望者への送迎サービス
- ・行事として、運動会・夏祭り・クリスマス会・ハロウィン・食事会を行った。
『駄菓子屋さん』を開店しご利用者に好きなお菓子を選んで頂く機会を設けた
- ・クラブ活動（4クラブ）を各1回ずつ実施した

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
支援者会議	理念の継承	全員	会議内にてサービス提供指針の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・「ほっこり報告」としてご家族からのうれしい言葉や職員の良かった（嬉しかった・助かった）言動、行動をボードに貼り付け共有した
- ・昼休みや送迎時に職員から困りごとや嬉しかったことなど聞く等職員とのコミュニケーションに努めた
- ・毎週木曜日にパート職員同士の意見交換の時間を設けた。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	6・2月	虐待防止	10	10/1	感染症講座	12
	8/6	アロマセラピー	12	10	愛着障害	5
	12/5	くすりについて	12			
法人研修	年 2	SV 研修（管理者）	1	年 3	SV 研修（主任）	1
法人研修 施設外研修	5/22	新年度研修	9	6/15	コミュニケーション研修	2
	6月～ 7月	サビ管研修	1	1月	サビ管更新研修	1
	9.11 月	強行研修（基礎、実践）	1	10/27	日中活動支援部会研修	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

内 容	参加者
サロン送迎	職員 1 名、

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年 4 回	保護者会	職員 1 名、保護者平均 4 名

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
7/31	保護者	他利用者からの他害について	施設長

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	28	ヒヤリ	67	虐待	0	身体拘束	1315
----	----	-----	----	----	---	------	------

※身体拘束はすべて車いす使用時のベルト等着用（同意書 6 件）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

2 か月に 1 回 地震、火災想定での防災訓練、毎月 1 回 通信訓練（安否コール）実施した。新型コロナウイルス感染予防の面から消防署立会い訓練は行わず。

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増減
サービス活動収益計	23,002,410	0	23,002,410
サービス活動費用計	26,641,862	0	26,641,862
経常増減差額	△3,634,748	0	△3,634,748
特別増減差額	105,355,532	0	105,355,532
当期活動増減差額	101,720,784	0	101,720,784

※サービス活動収益の内、寄付金収益（20,000円）

収支関係で特別に伝えたい事柄がある場合は別に記入する

合算数値

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増減
サービス活動収益計	50,027,521	62,095,981	△12,068,460
サービス活動費用計	50,035,060	51,193,051	△1,157,991
経常増減差額	64,604	10,923,852	△10,859,248
特別増減差額	50,339,247	60,000	50,279,247
当期活動増減差額	50,403,851	51,316,933	△913,082

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

建物建設に関しての県への報告は本部の協力を得て行った。

設置基準の確認、ニーズ調査等を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

1 実習生の受け入れ

吉田特別支援学校の体験実習生 3名 延べ23日 受け入れた。

2 ボランティアの受け入れ

お話ボランティア（隔月）・音楽教室（毎月）・笑いヨガ（隔月）・第一興商レク（隔月）は感染予防のため受け入れを中止した。

日赤奉仕団の受け入れは、やまばと希望寮と相談の結果、受け入れを中止した

N その他

令和3年度福祉施設等施設設備費補助金を受けてディサービスセンター真菜と共に5月1日に移転新築する予定

新施設総建築費 211,545,454円（設計委託費、共通費、造成費含む）

新施設事務室用備品類一式 902,000円

新施設電話機・電話工事一式 906,026円

2022年5月1日開所予定

令和3年度赤い羽根共同募金の助成決定を受け令和4年度に事業実施を予定している

2021（令和3）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
安心、安全を提供できるようにすることについては、事故、ヒヤリハットはあったものの、大きな事故や怪我に至るケースはなかった。また、段差の解消を行った。
チーム野ばらとして『おたのしみ』を提供するについては、一部の期間を除いて、外部講師による活動（レクダンス、絵画教室等）を行うことができた。
記録システムの活用については、データベースの入力は終えたが、記録の共有という段階には至っていない。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
利用者の呼称について「〇〇さん」と呼ぶことを徹底した。
- 3 法人の当年度重点計画との関連
理念の浸透と実践について、ともに生きる、私たちの願いを朝礼や会議の参加者で唱和し、確認の場とした。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
20	19	0(+2-2)	253	4063	16.1	80.3%
区分3	区分4	区分5	区分6	合計		
1	2	7	9	19		

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	11	1	1	1	16
常勤換算人数	0.1	1.0	8.1	0.1	1.0	1.0	11.3
増減	0	0	0(+1-1)	0	0	0	0

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は376時間。月平均で31.3時間であった。1人当たりの月平均は2.2時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間204.3時間、1か月平均17時間であった。
有給休暇取得状況は、全体で65.4%の取得率、100%（4名）、最低は25%（1名）。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

通所（職員）会議、各ケース会議、ソフト（常勤）職員会議を毎月実施し、重要事項の検討や情報共有、利用者の関する支援方法の検討等を行った。
外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情に関する委員会に出席した。また、隣接事業所との連携を目的として防災、給食委員会に参加した。
その他として、行政の自立支援協議会や地域のケース検討会等に参加した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

野ばらの会（レクリエーション）を職員2人1組で企画、新聞遊び、壁面製作、ボール運びゲーム、メダル製作、太鼓の達人(TVゲーム)、盆踊り、野ばらパラリンピック等を実施した。また、お楽しみ企画として、クッキング、七夕の会、秋祭り、美化活動、クリスマス会、節分の会、ミニエンジョイを実施。加えて、通常の活動としては、散歩、作業、リハビリ、ドライブ、カラオケ、DVD・ユーチューブ鑑賞等を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムについて
朝礼や職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせを行った。また、生活ケア部門のフレッシュマン交流会に参加した。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
チームワーク形成に関して、職員が一丸となって、ご利用者とまたは同僚と『ともに生

きる』理念を念頭に置き、お互いが支えあえるようにコミュニケーションを取りました。
 施設長面談をリーダー職員は計4回、その他の職員は計2回実施した。また、比較的年配の職員にも伝わりやすいように、情報共有を目的として情報掲示板を設置した。

3 研修報告

外部研修として、静岡県知的障害者福祉協会の研修、防火管理者講習会等に3名が出席した。法人内研修には新年度研修、新年度研修などに10名以上が出席した。事業所内研修として、自閉症に関する研修、ケアする人のケア（ヨガ）の外部講師を招いて実施した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

島田市社会福祉協議会等を通じて、大草団地の買い物支援への協力について関係機関と協議している。また、第3地区民生児童委員による花植え、草取りが行われた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

家族だよりを毎月発行して、情報提供に努めた。事故やヒヤリハット、苦情に関する報告も掲載した。また、緊急の連絡はメールで実施した。

毎月実施の家族会に職員が参加、家族アンケートを実施し要望等の把握に努めた。

G 苦情とその対応に関する報告

計2件の苦情を家族から頂いた。1件は情報提供について、1件は配布文書の内容についてであった。謝罪や説明通知等で対応した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故18件、ヒヤリハット39件、身体拘束0件、虐待0件であった。事故については転倒が最も多かった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

火災や地震想定避難訓練を毎月1回実施した。また、3施設合同の防災委員会の開催し、防災倉庫の備蓄について点検を行った。

家族から土砂崩落の心配があり、行政に対して対応をお願いした。

J 環境整備に関する報告

防犯カメラ設置工事を1,298,000円で実施した。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2021年度	2020年度	増減
サービス活動収益計	53,524,416	55,043,952	-1,519,536
サービス活動費用計	48,916,615	50,152,722	-1,236,107
経常増減差額	4,660,452	4,897,294	-236,842
特別増減差額	-3,000,000	-6,023,101	3,023,101
当期活動増減差額	1,660,452	1,125,807	2,786,259

※サービス活動収益の内、寄付金収益（500,000円）

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁との関連した報告 なし

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生として、高校1年生の職場体験実習、法人内事業所から1名を受入れた。ボランティアは、家族による草刈り等、元職員による支援ボランティアを受け入れた。

N その他

新型コロナ感染予防により隣接事業所からの利用が一時的にストップすることがあった。また、希望者については隣接診療所で新型コロナワクチン接種を実施した。

2021（令和3）年度 事業報告

生活介護

ケアセンターかたくりの花

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）

- (1) 牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、計画を立て事業を行った
- (2) ご家族とのコミュニケーションを深めるために、受け入れ時や帰宅時に困ったことや心配な事が無いかなどの声掛けにより、話しやすい環境を提供

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

- (1) 利用者会議を開きご利用者一人ひとりに向き合い、意思や気持ちに耳を傾けくみ取る支援を提供。自己選択の場面を多く提供することで、他者に伝える経験を重ねている
- (2) 個別支援計画については、年2回モニタリングを実施し必要に応じて見直しを行った

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

- (1) 朝のミーティング時にサービス提供指針の読み合わせや基本理念の唱和实施
- (2) コロナ感染予防の為 ZOOM による、主任者等 SV 研修や法人内外の研修にも可能な限り参加し、介護福祉士を目指し2名が資格取得

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20人	21人	なし	253日	4585人	18.1	90.6%
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	4	10	7

※区分6のご利用者1名契約はしたが垂穂寮ショート利用中の為利用無し。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	12（内兼務1）	1	1	0	15
常勤換算	0.2	1.0	8.9	0.6	0.5	0	11.2
前年増減	0	0	0	0	0	0	0

※

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	172H	最高残業時間	58H	有給休暇取得率	69.5%
-------	------	--------	-----	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画 ヒヤリ事故報告 利用者ケース検討等
4/2 110/26	苦情解決委員会	渡邊	苦情報告
5/24 9/27 3/11	防災委員会	松木	他県のBCP 各事業所のBCP 法人のBCP
5/25 11/24	事故ヒヤリ委員会	松木	事故報告 事例検討
7/9 10/8 2/7 3/4	志太榛原重心部会	渡邊	圏域内情報共有 当事者団体との意見交換「しだはい、はなそ〜かい」にて検討会
4/15 6/2 9/28 1/13 2/6	ケア会議	渡邊 松木	それぞれのサービス利用中の様子の共有 これからの支援方法について話し合い
12/21 2/25	くらし部会	松木	緊急対応の情報収集 地域生活支援拠点での体験について

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- (1) 小さな単位の中で自分の気持ちを伝える体験と練習の為、利用者会議を開き自分の思いや意見を他者に伝え、満足度をアップし達成感を感じる事を目指している
- (2) コロナ感染予防により個別外出が中止となり、ご利用者宅の庭園に訪問させて頂く。年度末のお楽しみ会として、桜や優雅に泳ぐ鯉を見てきれいに剪定されている庭木に囲まれお茶会を楽しんだ。季節の風や匂いを感じいつもと違った外出をゆったりと過ごした

D. 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
1回/月	理念の継承	職員全体会議参加者	サービス提供指針を読み合わせ
1回/週	行動指針・私たちの願い	ミーティング参加者	朝のミーティング時に基本理念唱和

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った

帰宅前の 2～3 分を利用してパート職員のその日の思い気持ちを聞き出し、明日も頑張ろうと思いに繋がるように声掛けを実施。また、職員親睦の為勤務終了前の 15 分間を使いゲームの中でパートナーの良い点を褒め合い、仲間としてのチームワークを深めた

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/9	「それでも一緒に歩いていく」感想	11	5/9	契約・重要事項説明書・身体拘束の説明	10
	10/8	タッチケア講座	10	11/10	エデンオルタ検討	10
	1/14	記録の書き方	10	3/9	次年度支援について	6
法人研修	4/1 10/18	新人オリエンテーション	3	5/24	防災研修会	1
	6/16	義務化のポイント	1	6/29	施設長研修・財務	1
	6/30	SV研修Ⅰ（全5回）	1	7/19	SV研修Ⅱ（全4回）	1
	1/18	生活ケア部門「フレッシュマン研修」	1	7/8	生活ケア部門・施設長財務研修	1
施設外研修	4/27	中堅職員キャリアパス対応研修（3日間）	1	6/21	メンタルヘルス講座	1
	6/8	研修活用入門講座	1	9/3	記録の書き方活かし方講座	1
	9/27	心と体の癒すタッチケア	1	10/27	日中支援部会職員研修	1
	11/5	権利擁護啓発講座	1	11/11	心疲れていませんか	1
	11/22	重心者対応従事者養成研修（2日間）	1	12/23	虐待防止講演	1
	2/9	新人育成～やめない・育つ・元気に笑	1	1/12	事業所のBCP実践編	1
	3/16	口腔ケア	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
月・水	アルミ缶回収と整理整頓	利用者5名 職員2名
12/6	島田にこにこクリーン大作戦参加	利用者3名 職員1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
3回/年	保護者会（その内1回コロナ感染予防の為中止）	各保護者13～15名 職員1名
毎月	風さゆるを作成し活動内容や毎月の行事等様子を発行	ご利用者 職員全員対象

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内容	対応者
7/14	ご利用者Kさんのお母様	ショート明け時の荷物確認をしていないのでは（苦情というよりも要望だった）。	施設長：渡邊

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	3	ヒヤリ	46	虐待	0	身体拘束	1512
----	---	-----	----	----	---	------	------

※身体拘束（車椅子胸腰ベルト含む）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

(1) 防災

火災及び地震に対する計画に基づき防災訓練を毎月1回行った。訓練時間の設定を午前や午後の活動前に変更し場面を変えての訓練を実施
法人主催の防災訓練では廊下に障害物等を設置しての避難を行い、地震訓練では頭の上にクッションや枕等で自ら頭を守ることが出来、毎月の訓練の成果が出ていた

(2) 交通安全

12月送迎時交差点左折時に自転車と接触事故あり。信号変わり最徐行していたが安全確認を怠ったことが原因の為、送迎職員と職員出勤・家庭送迎時の安全運転を周知した

J 環境整備に関する報告

- (1) 6月本館から作業棟への連絡通路改修と、9月浄化槽ブロワー修理実施
- (2) 6月コピー機リース新規契約実施
- (3) 公用車安全面と燃費を考えリース新規契約実施
- (4) 防災食料備蓄品使用期限近い物については、ご利用者昼食時に防災食体験として提供実施。3月に防災食購入し備蓄品として保管した

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度	2020年同期	増減
サービス活動収益計	59,936,713	57,123,538	2,813,175
サービス活動費用計	45,222,862	44,647,266	575,596
経常増減差額	14,738,535	12,568,932	2,169,603
特別増減差額	△4,482,400	△8,000,000	3,517,600
当期活動増減差額	10,256,135	4,568,932	5,687,203

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 300,000円 ）

2 借入金償還報告

借入金なし

L 主務官庁に関連した報告

実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告なし

M 実習生やボランティアに関する報告

(1) 実習生

掛川特別支援学校高2年1名（3日間）藤枝特別支援学校高1年1名（5日間）実習
常葉大学保育学部4年1名（10日間）3年1名（コロナまん延防止により9日間）実習

(2) ボランティア

岩本造園5回/年各2名（草刈・庭木の手入れ・駐車場整備等）
保護者1名（プラムジュース作り）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2021（令和3）年度事業報告

就労継続支援A型事業所
ワークセンター カサブランカ

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
 - 1 新しい職員が多く、事業が円滑に運営できるよう努めた。業務の見直しやマニュアル作りをできることから実施した。
 - 2 個別支援計画に基づきご利用者の状況把握、課題整理、目標設定を行い、各支援機関と連携を取りながら、それぞれのご利用者に寄り添ったサービスを提供した。
 - 3 精神障がいの方の利用が増加しているため、医療を初め専門知識を有する関係機関や先進企業との連携を取りながら、ご利用者の精神の安定を図り自信を取り戻すことで、一般就労への早期復帰を目指した。今年度も新型コロナウイルスの影響もあり一般企業への就労支援は難しい状況だった。その中、精神障がい方ではないが、1名の利用者が就労に結びつくことができた。
 - 4 ご利用者の作業能力の向上の他、一般就労に必要な知識の習得や社会経験を増やすことを目的とした勉強会や講習会を計画し、10月（ブラッシング指導）12月（地域掃除）を行った。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
牧ノ原やまばと学園の「サービス提供指針」に基づいた、利用者ひとりひとりをかけがえない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努めた。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
「理念の確認と実践」「職員の育成」法人主催の研修には、対象職員はすべて参加してもらい、法人の理念を少しでも理解し、法人が求める、やまばとの職員像に近づけるように日々の働きの中で実践できるように心がけた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
15	12	-1	247	2532	10.5	63.8%

※6/30付1名65歳の為利用終了 9/31付け1名就職の為利用終了
※7/12付け1名新規利用開始

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	3	1	0	7
常勤換算	0.1	0.9	0.6	3	0.2	0	4.8
前年増減	△(0.3)	△1(0.1)		+(0.4)			△1(0)

※12月1日付でサビ管退職。1月1日より管理者・サビ管兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	31.5	最高残業時間	5	有給休暇取得率	84.6%
-------	------	--------	---	---------	-------

※有給休暇取得率 利用者も含む

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等

5・11月	虐待防止会議	全員	事業所職員虐待
毎月	作業就労部会	澤渡	各事業所報告、検討事項
毎月	施設管理者会	澤渡	各事業所報告、検討事項
随時	事務連絡会	曾根	事務処理、会計等連絡、検討事項
5・3月	防災委員会	澤渡	法人BCP、各事業所のBCP
4・10月	苦情解決委員会	澤渡	各事業所苦情事案報告、検討
5・11月	事故防止委員会	澤渡	各事業所事故、ヒヤリ報告、検討
随時	市しごと部会	甲賀	島田市就労系事業所の連携、検討事項
3月	就労スタッフ ミーティング	2名	志太・榛南圏域の就労支援事業所の会合

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 就労継続支援A型事業所として、雇用契約に基づく就労の機会を提供した。
- 2 一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施。必要に応じて求職活動支援を行った。
- 3 島田市から「資源類中間処理業務」の委託を受け、白色トレイ・ペットボトル・牛乳パックの回収資源ごみの選別・梱包、白色、茶、その他の色ビンの選別等を行いました。
- 4 感染症対策を考えながら業務遂行に支障のない範囲で利用者の励みとなるような季節の小行事を提供しました。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムに関して
今年度は共通目標を認識するためのプログラムや計画は実施できなかったが、新年度研修の際、「取り組むべきこと」として話し合ったことについては、職員全体でできる範囲から具体化を計った。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
日常的に『報告、連絡、相談』を行い、職員全員が働きやすく、風通しの良いチームを形成するようにこころがけた。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人研修	5/22	新年度研修	4	随時	主任者SV研修	1
	随時	管理者SV研修	1	1/27	法人労務研修	2
	6/22	新人職員コミュニケーション研修	2	11/2	新人職員オリエンテーション	2
施設外研修	6/4	社事同総会	1	6/22	オールしずおか記念講演	1
	7/13	労基法研修	2	11/4	ボランチ就労研修	1
	12/23	精神障がい者支援の障害特性理解と支援技法	1	12/23	島田市虐待防止講演会	1
	随時	会計講座	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
12/22	ニコニコクリーン大作戦	利用者・職員全員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	カサブランカ便りを発行	

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
2/17	運搬業者	回収カゴがセットされてなかった。 自分達のところだけ手伝いが無い。	施設長

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	1	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※事 故：他害（1） ※ヒヤリ：作業トラブル（2）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 「地震・風水害対応マニュアル」「災害時事業継続計画」「消防防災計画」に基づき対応し、毎月の防災訓練、年1回の総合防災訓練及び備蓄品、食品及び保存水の点検を実施した。
- 2 通勤手段として自転車、自動車通勤の方がいるため、日頃から道路交通法を守り、安全に通勤する意識付けを行った。
- 3 感染症防止対策は、マスク着用の徹底、密を避けるよう時差出勤、昼休憩（食事時間）を2班に分かれて取るなど対策を行った。また、入り口に検温機を設置し、利用者、職員とも出勤時の検温、消毒、来所者に対しても立ち入り時に検温、消毒を実施した。環境整備として食事場所にアクリル板を設置、日々、施設内の消毒、換気、手洗いうがいの徹底等の対策を継続的に実施した。感染者を出すことはなかった。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

島田市から借用している設備であるが、利用者がその能力を發揮し作業が円滑にできるよう、出来る範囲で職場環境の改善を行った。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増減
サービス活動収益計	20,120,749	23,564,858	△3,444,109
サービス活動費用計	39,013,594	38,743,362	270,232
経常増減差額	4,144,812	7,802,119	△3,657,307
特別増減差額	△2,500,000	△5,400,000	2,900,000
当期活動増減差額	1,644,812	2,402,119	△757,307

※サービス活動収益の内、寄付金収益（無し）

2 借入金償還報告

無し

L. 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

無し

M. 実習生やボランティアに関する報告

- 1 各関係機関からの福祉体験実習、特別支援学校生徒の実習の希望者は無かったが、今後も積極的に受け入れ、当事業への理解、協力を深める機会としていく。
- 2 利用を希望する一般からの実習生については、2名の方を受け入れた。

N. その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

無し

2022（令和3）年度 事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターコスモス

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
 - (1) 利用者アセスメント資料の統一をするべく整理中。
 - (2) 建物の建て替えに向け補助申請等の準備をする予定であったが、市との話し合いで建物の耐用年数が残っており解体できない事が判明。建物を修繕しつつ事業を継続する方向で市と話し合う事になった。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
法人50周年記念誌「それでも一緒に歩いていく」を読み、感想を話し合った。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
建物について市と協議した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	17	△3	252	4221	16.8	84%

※7月、認知症進行による契約終了1名。9月、65歳定年による契約終了1名。
3月、逝去による契約終了1名。
※高齢化に伴い体調不良、受診、コロナワクチン接種等、欠席が多く利用率減に影響した。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4	4	1	0	11
常勤換算	1	1	2.7	1.2	0.2	0	6.1
増減							

※6月 3Hパート職員（週3）1名 退職。
7月 3Hパート職員（週5）1名 入職。

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	43.5	最高残業時間	4.5	有給休暇取得率	89%
-------	------	--------	-----	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	利用者ケース検討 ヒヤリ・事故報告、虐待防止委員会等
毎月	作業就労部会	石神	各事業所の月例報告、情報交換
毎月	施設管理者会	石神	法人情報報告、各事業所の月例報告他
年2回	事故防止委員会	石神	事故事例の検討
年2回	苦情解決委員会	石神	苦情事例の検討
5.9.3月	法人防災委員会	石神・森山	法人・事業所BCPの検討
隔月	島田市しごと部会	石神	島田市地域自立支援協議会
10～3月 (9回)	コスモス検討委員会	石神	WC コスモスの建て替えを含む今後の事業について
11～3月 (4回)	コスモスについて 島田市との協議	石神	同上
2/11	職員事業説明会	全職員	コスモスの今後について法人から説明

2/12	保護者事業説明会	石神・大塚・森山	同上
2/12	相談事業所関係者説明会	石神	同上

C 利用者の喜びのために工夫したこと

4月:勤続表彰式・花壇植え替え・出張寿司 6月:園芸教室 7月:花壇植え替え
 10月:ハロウィンイベント 11月:花壇植え替え・会食
 12月:島田高校交流会 (DVD・メッセージ交換) 1月:成人を祝う会
 2月:ブラッシング指導 3月:テイクアウト弁当

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムなし
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 - (1) 毎月の職員会議の際、業務と関係がないテーマを話す時間を設け、スタッフ間のコミュニケーション向上を図った。
 - (2) 新入職員の歓迎会の代わりに昼食会を行った。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	7/21	感染症講習	8	年2	虐待防止セルフチェック	7
法人研修	5/22	新年度研修	4	年4	SV研修	1
	7/13	労基法研修	1			
施設外研修	11/5	業務の定着化を図る「教え方」講座	1	12/19	市民公開講座「てんかんって何？」	1
	12/23	障害者虐待防止講演会	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
毎週	寺院(普門院)境内・墓地清掃	職員1名 利用者3~4名
年3回	第2地区民児協交流会(花壇の植え替え)	委員4名 利用者全員
12/17	島田市にこにこクリーン大作戦(事業所別)	職員1名 利用者4名
12/23	島田高校交流会(頂いたDVDの上映)	利用者全員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
4/10	家族会	職員2名、保護者17名
2/12	保護者事業説明会(コスモスの今後について)	職員3名、保護者11家族

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内容	対応者
8/5	利用者家族	電話対応について不快感を訴える	施設長

※ 利用者が欠席の電話連絡をしたところ笑って対応されたと感じ家族に伝え、家族から訴えがあった。本人、家族にそれぞれ謝罪し、理解を得た。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告(交通事故も別に記載)

事故	7	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	99
----	---	-----	---	----	---	------	----

- (1) 事故: 利用者の突発的行動による受傷(青あざ・赤み)、通所時のトラブル等

- (2) ヒヤリ：椅子の座り損ね等
- (3) 虐待：虐待防止委員会を毎月開催。セルフチェックを10月と3月に実施
- (4) 身体拘束：情緒不安定の際、職員が両側から両腕を抑える事について、当該利用者1名のご家族と身体拘束同意書を交わした。施設長の交代した4月が多く、毎月の職員会議において支援方法を話し合い、身体拘束回数の減少に努めた。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- (1) 消防計画に基づき、毎月火災と地震訓練を交互に実施した。また、総合防災訓練2回、法人全体防災訓練1回を行った。
- (2) 感染症対策として、「感染症マニュアル」を備え、主に新型コロナウイルス対応については全職員のワクチン3回目接種終了、事業所内のゾーニング及び、発生時の対応フローを備えた。
新型コロナウイルスに感染した利用者はいなかった。
職員では1名が家庭内感染、1名が家庭内濃厚接触者になり共に10日間休んだ。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	36,203,621	41,478,790	△5,275,169
サービス活動費用計	27,801,668	30,402,495	△2,600,827
経常増減差額	8,417,041	11,140,446	△2,723,405
特別増減差額	△3,500,000	△11,007,701	7,507,701
当期活動増減差額	4,917,041	132,745	4,784,296

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0円）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

- (1) コスモスの建物修繕、事業継続について島田市と協議中。

M 実習生やボランティアに関する報告

- (1) 島田市立看護専門学校15名
- (2) 毎週木曜日午前 作業ボランティア1名（市内コロナ感染拡大時は遠慮願った）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- (1) ヒヤリハット記録について振り返りが無かったのでその後の評価を行う事にした。
- (2) 防災マニュアルについて、原子力災害のハザートマップが必要と監事監査で指摘あり。「静岡県/浜岡地域原子力災害広域避難計画」から資料を引用した。

2021（令和3）年度事業報告

就労継続支援B型事業所 ワークセンターなのはな

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
 - サービスの質の向上と自立支援を意識した活動の充実
施設内研修では、法人内就労系事業所見学を行い、自事業所の支援をふりかえる機会となり、発達障害研修で特性や利用者支援に対する理解が深められた。職員会議では意見が活発に発言されるようになり、支援の共有の場になると共に行事の充実に繋がった。
 - 地域との良好な関係の維持
毎月1回の町内清掃活動の中で、地域の方々より声をかけて下さるなど、関わりの場ができ、理解を広げる機会となった。
- 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
隔月の職員会議の際に、サービス提供指針の読み合わせを行い、理念を共有した。
- 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
職員育成に関して、管理者・職員1名がスーパービジョン研修を受講、職員1名が実務者研修に参加し、介護福祉士試験に合格した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
30名	28人	-2人	251日	6896人	27.4人	91.6%

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	7	1	0	12
常勤換算	0.5	0.5	2.0	4.0	0.5	0	7.5
前年増減			△1 (0.1)	0			△1 (0.1)

9/1 準職員から正規職員へ転換（1名）。

3/1 非常勤職員 ワークセンターやまぼとへ異動（1名）。

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	55	最高残業時間	37	有給休暇取得率	65%
-------	----	--------	----	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
月1回	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故・利用者ケース検討等
9/27	法人防災委員会	松浦	事業所BCPの検討
5/25, 11/24	法人事故防止委員会	鈴木	事故・ヒヤリハット事例検討

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 生産活動の場を提供し、個別支援計画に基づき、各々の能力向上に努めたことで、作業量が増加、工賃を向上することができた。
- 生活雑貨の受託を開始し、社会情勢の影響を回避することができた。又、製品が店頭で販売されることで、利用者が社会との繋がりを感じられ、喜びに繋げることができた。
- 買い物訓練、調理等行事の中で、社会生活に必要な事を学ぶ機会を提供することができ、

休憩時間に、仲間同士で行うボードゲームやカードゲーム、手芸用品他遊具の充実に努めたことで、メリハリある日課の中、利用者の意欲増進と良好な関係構築に繋がった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
隔月	理念の継承	11	職員会議でサービス提供指針の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
- 職員会議の際、テイクアウト昼食にて、ソーシャルディスタンスを保ちながら親睦を図った。又、互いに相談しやすい関係になるよう職員会議等工夫をした。
 - 行事についての計画・準備から実践までを、職員で分担して行い、より充実感を感じることができた。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	12/17	発達障害	11	1/21	身体拘束・虐待	11
法人研修	5/22	新年度研修	11	年 3	SV 研修 (2・4・6)	1
	年 3	SV 研修 (1・3・5)	1			
施設外研修	8/23	経理応用講座	1	12/23	精神障害者	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	横井町クリーン作戦	利用者 28 名、職員 10 名
12/24	民生委員訪問 (代表者 5 名)	利用者 28 名、職員 11 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
随時	おたより配布・ノートにて様子連絡 (コロナ禍対応の為、保護者連絡会なし)	

コロナ感染症対策の為、保護者連絡会の開催はなかったが、お便りや電話、ノート等の連絡で、ご家族の状況理解に努め、関係機関と連携してより良い関係作りを行った。

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
8/31	近隣の方	利用者の放尿の改善	施設長

法人主催の苦情解決委員会へ出席し、苦情について学んだ。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	8	ヒヤリ	8	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※事故：利用者接触、転倒

※ヒヤリ：ハンガーラック転倒等

法人、虐待防止委員会への出席、職員会議等で情報を共有し虐待防止に努めた。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 「なのはな消防計画書」「地震風水害マニュアル」に則った訓練の実施、広域避難場所である第 3 小学校や風水害に備え島田駅への避難訓練を実施した。10 月には消防署への通報訓練やタンカでの救護訓練、火事に備え消火訓練を実施した。
- 法人防災委員会への出席と月 1 回の携帯電話への安否コールの実施、職員会議でマニュアルの周知を行い災害に備えた。

- ・毎日の敷地自主点検や、年1回の防災パトロールにおいて危険個所をチェックした。
- ・感染症対策として「感染症マニュアル」を備え、特に新型コロナウイルス対応については、全職員のコロナウィルスワクチンの3回接種終了や対応フローに沿って、事業所内のゾーニング等整備した。
- ・感染症対策を徹底したことで、感染者の発生はなかった。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	51,772,836	53,843,583	△2,070,742
サービス活動費用計	38,002,737	34,253,748	3,748,989
経常増減差額	7,618,294	13,782,949	△6,164,655
特別増減差額	△ 3,000,000	0	△3,000,000
当期活動増減差額	4,618,294	1,3782,949	△9,164,655

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (0)

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2017/4/25	0.46	25年	静岡銀行	78,000,000	15,340,000	62,660,000

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

藤枝特別支援学校 実習 3名 体験 2名 見学者 4名
 静岡北特別支援学校 実習 1名
 清流館高校 2名
 島田市立看護専門学校 12名

*新型コロナウイルス蔓延時には、高等部3年生の実習を受け入れることができないこともあったが、実習中の体調管理に加え、看護専門学校生・清流館高校生の実習の際には、食事は別室で摂ってもらう等、配慮して受け入れた。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

なし

2022（令和4）年度 事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターあさがお

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
事業所内のチームワーク作りに力を注いだ。誰もが話易く、聞きやすい職場環境作りに努めた。子育て中でも病気治療中でも働ける職場として職員同士助け合い業務を進めた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
新年度研修には全職員が参加し、意見交換の機会を持った。法人の50周年誌の感想や意見交換をすることができた。新人オリエンテーションへの参加もできた。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
4月より採用した新人の育成に力を注いだ。1名の職員が他のサービス事業所で働きたいと退職を希望したため、貴重な人材を残すため法人内の生活介護事業所への異動を勧め退職ではなく異動で残留できた。（9月）

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	0	243	4860	18.2	91%

※2月に新型コロナウイルス感染者発生により臨時休業5日間（土日除く）

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	5	1	1	11
常勤換算	1	1	1.5	2.5	1	0.45	7.45
前年度増減	0	0	0	△0.75	0	△0.15	△0.9

※6月生活支援員（正規職員）退職、10月生活支援員補充（準職員）

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	95	最高残業時間	61	有給休暇取得率	88.2%
-------	----	--------	----	---------	-------

※6月退職者、8、9、10、1、2月病欠者有のため残業となった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
5・11月	法人防災委員会	安松	法人BCP、法人全体防災訓練について等
4・10月	苦情解決委員会	榛地	法人内苦情の確認と共有 他
8月	虐待防止委員会	榛地	管理者会にて同時開催
毎月	施設管理者会	榛地	各種報告・検討事項・記念誌感想等
毎月	作業就労部会	榛地	各種報告・検討事項・情報共有等
毎月	杉山会計月次監査	杉山	会計監査（月次）
隔月	しごと部会	榛地	地域課題の抽出、検討、共有、スキルアップ研修等

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・昼休みの見守りと余暇の提供に努めた。（YouTube・ぬりえ・ボードゲーム等）
- ・毎月テーマを決めて行事を実施した。（創作活動・体験学習・体操、等）
- ・コロナ禍で外出の機会が減ったため、土曜日の午前中を利用し体操等の自主活動の実施。
- ・感染状況の確認をしながら、日帰りバス旅行を実施し社会参加の機会を設けた。
- ・多種多様な作業の提供に努め、コロナ禍にあっても受注売り上げを申し工賃アップをすることができた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	就業規則・理念	全員	サービス提供指針の輪読、管理者会報告等
随時	業務連絡ノート	全員	利用者状況やケア会議の報告等の情報共有

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・毎月1回「カレーの日」を設けて施設長の手作りカレーを職員全員が食べた。
- ・毎月の職員会議の後、15分程度の茶話会を開き自由に雑談をした。
- ・毎日シフト表を作成し、必要な連絡や情報を記入し業務以外のことも共有した。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人内研修	4/1	新人オリエンテーション	2	5/22	新年度研修	12
	4回	S V研修 (主任)	1	3回	S V研修 (管理者)	1
	11/2	新人オリエンテーション	1	3/24	管理者研修	1
外部研修	7/12	ファシリテーション	1	10/5	虐待防止研修	1
	11/5	教え方講座	1	12/15	ヤングキャリアスタッフミーティング	1
	1/17	サビ管更新研修	1			
施設内研修	8/18	虐待研修	7	10/5	虐待防止研修 (共有)	10
	10/27	障害福祉サービスを知る	11	11/17	教え方講座 (共有)	10

※コロナ禍のため Zoom による研修が中心であった。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
11/29	民生委員交流会 (作業体験・紙芝居・ゲーム等)	職員 10 名・利用者 17 名
9月～	あさがおしまトレ (土曜日開催 2 回/月・自主活動)	職員 2 名、利用者、保護者
1/8	島田市公認しまトレ試行 (対象：井口地区)	職員 2 名、初倉包括、地域役員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
随時	モニタリング・必要に応じた個別連絡と相談	各家族・保護者 年 1～2 回

※コロナ禍のため対面での連絡会は中止し、個別対応と書面での連絡とした。

G 苦情とその対応に関する報告

- ・なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	1	ヒヤリ	7	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※事故＝行事のボランティアに来てくださった父兄の怪我 (通院なし・謝罪に訪問)

※ヒヤリハットに関しては今後、職員の記録に対する意識を高めていくことが課題。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況、感染症などの報告

- ・毎月防災訓練を実施した (2 月、3 月は担当者病欠のため未実施となった)
- ・天候等による自然災害による被害はけが人はなし
- ・感染症対策として、「感染症マニュアル」を備え、主に新型コロナウイルス対応については全職員のワクチン 3 回目接種終了、事業所内のゾーニング及び、発生時の対応フローを備えた。
- ・2 月に 5 名の利用者が新型コロナウイルスに感染、臨時休業 (2/18～27) をした。
職員の感染者は発生しなかった。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

・なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告(事業活動)

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	41,301,827	42,220,390	△918,563
サービス活動費用計	38,829,433	36,852,450	1,976,983
経常増減差額	2,526,314	5,461,169	△2,934,855
特別増減差額	△2,985,000	3,095,796	△6,080,796
当期活動増減差額	△458,686	8,556,965	△9,015,651

※サービス活動収益の内、寄付金収益 なし

※新型コロナウイルス感染による臨時休業、感染による自宅待機者等により減収

2 借入金償還報告

・なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

・なし

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・高校生と特別支援学校の実習生は感染状況を確認しながら受け入れた。
県立清流館高校2名 藤枝特別支援学校1名 吉田特別支援学校3名
一般1名(吉田特別支援学校2名と一般1名は4月からの利用につながった)
- ・緊急事態宣言期間中以外の期間は地域の個人ボランティア2名の方の受け入れを継続。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

・なし

2021（令和3）年度 事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンター希望の家

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）

2021年度契約者数16名でスタートした。1名長期休みで、ご自宅訪問や関係機関と連携を取り、再利用できるよう支援したが、結果ご本人が福祉サービスを利用せず在宅生活を選び、9月末で契約終了となった。同時進行で新規ご利用者獲得のため、65歳以上の方を受け入れる体制作りを行い、8名中3名が介護福祉士資格を有する職員体制とし、65歳以上の方の受け入れを行った。3名の実習を行い、内1名が10月から利用契約となり、もう1名が来年度から利用契約に結び付いた。加えて、もう2名の職員が介護福祉士資格を受験し、合格となり、8名中5名が介護福祉士資格を有する体制となった。また、特別支援学校からの実習生を受け入れ、来年度利用契約となった。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

法人設立50周年時に製本された「それでも一緒に歩いていく」を全職員が熟読し、法人の歩みを理解したのち、全職員の話し合いの場を持った。法人が示す理念の理解を深めることで、日常の支援の向上につながった。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

法人の当年度重点計画の中での職員育成について、主任を中心とした組織図を改めて再編した。職務分掌を見直し、重複している事に関しては業務や支援の見直しを行い、職員全員で話し合いを重ねた。誰のための何のための業務見直しや支援の見直しであるかも伝えることによって、職員自身で考える力を身につけた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	16	0	250	3613	14.4	72.3%

※2021年3月末時点

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4	4	1		11
常勤換算	0.1	0.5	2.9	2.3	0.1		5.9
前年増減	△0.4			0.5			0.1

※2021年3月末時点

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	22	最高残業時間	19	有給休暇取得率	76%
-------	----	--------	----	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議 虐待防止委員会	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
毎月	施設管理者会	高松	法人情報共有や検討事項
毎月	作業就労部会	高松	作業就労部会内の情報共有や検討
隔月	事務連絡会	原	事務関係の情報共有と事務効率化の検討
4/21	苦情解決委員会	高松	事業所・法人内の苦情の情報共有と検討

10/26			
5/25 11/24	事故防止委員会	高松	事業所・法人内の事故の情報の共有と検討
8/15 9/27 3/11	法人防災委員会	高松 伊藤	防災研修 事業所 BCP の検討 法人 BCP の検討
8.2月 年4回	法人虐待防止委員会 自立支援協議会	高松 高松	虐待案件の情報の共有と学び 地域課題の検討
隔月	区分認定調査会	高松	障害者支援区分の判定

C 利用者の喜びのために工夫したこと

生産活動については受託作業を提供し、2021年度平均工賃は10,703円と利用者の工賃向上に努めた。また、生活に必要な知識やチームワーク形成につながる行事を下記の通り、実施した。

行事日	内容	行事日	内容
4/2	花見	10/20	ハロウィンパン祭り
5/14	家族に感謝の日	11/25	第2回ポッチャ大会
6/23	交通安全教室	12/22	クリスマス会
6/29	第1回ポッチャ大会	1/10	成人の祝い
7/7	歯磨き指導	1/27	交通安全教室
8/27	七夕夏祭り	2/9	歯磨き指導
9/10	ミニボーリング大会	3/11	苺パフェ作り

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。
施設管理者会、作業就労部会での情報を毎月職員会議で全職員に伝える事により、法人全体がどのように事業を進めているのか、同種別の事業所がどのような状況か理解し、自事業所の運営の方向性を合わせることに努めた。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
長年必要かどうか区別が出来なかった物を整理し、事務室や作業室、倉庫等のレイアウトを変更し、きれいな環境で仕事出来るようになった。休憩時間に職員が焙煎したコーヒー豆を挽き、職員全員で味わい心温かい時間を過ごした。
- 3 研修報告
 - (1) 施設内研修（各職員の受講した研修のフィードバック）
 - (2) 法人研修（全体研修、スーパービジョン研修、新人オリエンテーション、社労士研修）
 - (3) 施設外研修（全国社会福祉協議会、静岡県権利影響虐待防止セミナー、静岡県社会福祉協議会6回、防火管理者研修、島田市虐待防止研修、静岡市女性会館）

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
5/5	地域活動の日（ゴミ拾い）	職員1名、利用者3名
12/11	金谷地区社会福祉協議会 連絡会	職員1名

*地域との交流の場や催し物がコロナにより、中止となった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
12/5	保護者会	職員2名、保護者11名
3/29	保護者会	職員2名、保護者11名

G 苦情とその対応に関する報告

無し

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	1	ヒヤリ	5	虐待	0	身体拘束	1
----	---	-----	---	----	---	------	---

※注射や採血等の医療行為が苦手な方がおり、ご家族からの要望もあり、注射時に職員3名で体を支える身体拘束を行った。以後注射や採血時に身体拘束を行う可能性がある為、身体拘束同意書を結んだ。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

年に2回総合防災訓練を実施した。また毎月地震・火災想定避難訓練を交互に実施した。

職員退職に伴い、7月から防火管理者が変更となった。

感染症マニュアルに沿って、感染症対策を行った。また、感染症に関する研修に参加した職員による施設内研修を行い、感染症についての学びを深めた。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

主従の関係であるワークセンターふれあいと共有できるパソコン環境を整えた。またパソコンデータバックアップを取っていない状況であったため、併せて整えた。事務室2部屋から1部屋にまとめ、レイアウト変更を行った。空いた部屋は相談室として使用し、面談等落ち着いた雰囲気での相談できる部屋を確保出来た。また、作業室や製品倉庫の整理を行い、作業室はご利用者が働きやすい環境に、製品倉庫は何がどこにあるかわかりやすい環境に整えた。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	28,113,204	30,212,509	△2,099,305
サービス活動費用計	30,343,816	28,284,434	2,059,382
経常増減差額	△2,187,446	1,931,062	△4,118,508
特別増減差額	△1	△3,500,000	3,499,999
当期活動増減差額	△2,187,447	△1,568,938	△618,509

※サービス活動収益の内寄付金収益（10,000） 寄付金収益（131,575）

2 借入金償還報告

無し

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

無し

M 実習生やボランティアに関する報告

特別支援学校から2名の実習生を受け入れ、一般在宅障害者の実習も3名受け入れを行った。

ボランティアに関しては、行事ボランティア1名の受け入れを行った。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2021（令和3）年度 事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターふれあい

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）

- (1) 利用者の高齢化について、関係機関と連携し、1名の方が介護保険サービスへの利用に結びつけることが出来た。
- (2) 2021年度契約者数15名でスタートし、9月1名がグループホーム入居に伴い、契約終了、もう1名が介護保険サービス利用で契約終了となった。2月に1名が利用契約となり、計14名となった。地域性を鑑みると定員割れしている状況は今後も継続していくと考える。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

法人設立50周年時に製本された「それでも一緒に歩いていく」を全職員が熟読し、法人の歩みを理解したのち、全職員の話し合い場を持った。法人が示す理念の理解を深め、日常の支援の向上につながった。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

法人の当年度重点計画の中での職員育成について、主任を中心とした組織図を改めて再編した。主任が法人主催のスーパービジョン研修へ参加し、主任としての役割を学んだ。研修内で主任が対応困難に感じているケースを提出し、講師及び複数の職員で個別事例検討会を行った。検討会の結果を全職員へフィードバックすることによって、ご利用者の理解や支援の糸口を見つけるきっかけとなった。また、今年度より新人職員1名が入職し定期的に面談を行うことで、分からない事や本人が悩む事を拾い上げ、チーム全体で共有し導くことが出来た。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	14	-1	251	2990	11.9	59.6%

*2021年3月末時点

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	3	1	0	8
常勤換算	0.1	0.5	1.7	1.7	0.1	0	4.1
前年増減	△0.4			0.5			0.1

*2021年3月末時点

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	8.5	最高残業時間	7	有給休暇取得率	82%
-------	-----	--------	---	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議 虐待防止委員会	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
5/24 9/27 3/11	法人防災委員会	伊藤	防災研修 事業所BCPの検討 法人BCPの検討

C 利用者の喜びのために工夫したこと

生産活動については受託作業を提供し、2021年度平均工賃は12,578円と利用者の工賃向上に努めた。また、生活に必要な知識やチームワーク形成につながる行事を下記の通り、実施した。

行事日	内容	行事日	内容
5月	家族に感謝の日	12月	クリスマス会
8月	歯磨き指導 七夕祭り	1月	新年会
9月	お月見	2月	バレンタイン 歯磨き指導
10月	歯科検診 ハワイボーリング大会	3月	交通安全教室

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。
施設管理者会、作業就労部会での情報を毎月職員会議で全職員に伝える事により、法人全体がどのように事業を進めているのか、同種別の事業所がどのような状況か理解し、自事業所の運営の方向性を合わせることに努めた。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
長年必要かどうか区別が出来なかった物を整理し、きれいな環境で仕事が出来るようになった。また、年度末に職員同士で昼食を持ち合い、お疲れ様会を実施した。
- 3 研修報告
 - ・施設内研修（自閉症研修、個別事例検討会）
 - ・法人研修（全体研修、防災研修、コミュニケーション研修、スーパービジョン研修、新人オリエンテーション）
 - ・施設外研修（全国社会福祉協議会、静岡県権利影響虐待防止セミナー、静岡県社会福祉協議会2回、サービス管理責任者更新研修）

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
7.11月	島田市立川根小学校との次年度交流話し合い	職員2名
3月	地域に感謝の日	職員1名、利用者13名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

年に6回保護者会を開催。日々のご利用者の様子やふれあいについての話し合いや情報共有の場を持った。

日付	内容	参加者	日付	内容	参加者
4/9	保護者会	職員2名、保護者8名	10/13	保護者会	職員2名、保護者8名
6/18	保護者会	職員2名、保護者8名	2/16	保護者会	職員2名、保護者8名
8/25	保護者会	職員2名、保護者5名	3/30	保護者会	職員2名、保護者8名

G 苦情とその対応に関する報告

苦情0件

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	1	ヒヤリ	3	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※身体拘束同意書を結んでいたご利用者1名がいたが、自らの力と静かな空間を提供する事によって、気分を落ち着けることが出来るようになったため、身体拘束となる事例はなく、身体拘束の同意は1月に終了とした。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

年に2回総合防災訓練を実施した。内、1回はご家族への引き渡し訓練を兼ねて行った。また毎月地震・火災想定避難訓練を交互に実施した。
感染症マニュアルに沿って、手指消毒、ハンドソープディスペンサーを設置し、感染症対策

を実施した。新型コロナウイルスの感染状況を把握し、ご利用者ご家族にご協力をいただき、発熱等の症状が有る場合は利用を控えていただいた。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

主従の関係であるワークセンター希望の家と共有できるパソコン環境を整え、パソコン1台を更新した。経年劣化及び使用しにくかった作業室の手洗い流し改修工事を行い、手洗い励行し、感染症対策に努めた。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	23,598,539	26,241,333	△2,642,794
サービス活動費用計	23,553,038	25,227,955	△1,674,917
経常増減差額	60,914	1,019,601	△958,687
特別増減差額	△6,601	△1,500,003	1,493,402
当期活動増減差額	54,313	△480,402	534,715

※サービス活動収益の内、寄付金収益（20,000）寄付金収益（120,000）

2 借入金償還報告

無し

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

無し

M 実習生やボランティアに関する報告

利用希望者1名の実習受け入れを行い、利用契約につながった。

新型コロナウイルスの感染に注意しながら、地域のボランティアの受け入れを行った。作業補助や行事、装飾物作成をボランティアからご協力いただいた。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2021（令和3）年度 事業報告

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターやまぼと

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）

- ・ 職員会議等で、「権利擁護」「障害者虐待」「自閉症」について勉強会を行った。知識的な不足はある程度改善されたと思われたが、実践というところでの経験値が不足しているため、今後の課題となると思われた。
- ・ 発達障害者のための構造化を目指したが、現状の Woc やまぼと内だと空間の構造化が出来ず、安心した職場を提供する事が難しかった。その様な中でもパーテーションで区切る、時間表を作成するなどの簡易的構造化に務めた。
- ・ イベント等が出来なかったため、パンやお菓子の売り上げが減少した。また、材料の高騰によりコストが多く掛かったため、来年度より価格を引き上げる様にした。受託の仕事は滞りなく頂け、前年度と同等位の工賃の支払いをする事が出来た。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

- ・ 法人が掲げる基本理念に沿い、事業計画、運営規定に従って事業を実施した。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

- ・ 月の 1 回の会議でサービス提供指針の読み合わせを行った。また、自立支援協議会（就労部門）へ積極的に参加し、地域ニーズの把握（農福連携・就労パスポート）や、課題の対する検討に取り組んだ。
- ・ スーパービジョン研修に 1 名参加した。業務の標準化に関しては、会議で話し合う等の取り組みを行ったが、完成までには至らなかった。
- ・ 職場環境の整備としては、送迎サービスの利用が増えたため、車を購入した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	±0	249	4711	19	95%

※3 月 31 日で 1 名のご利用者が退所された。4 月 1 日より 1 名契約となる予定。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	4	1		10
常勤換算	0.5	0.5	2.5	3.2	0.2		6.9
前年増減				+1 (0.8)			

※施設長とサビ管兼務、生活支援員と事務員兼務（常勤換算 0.8 : 0.2）となる。

※3 月 1 日より、7 時間パート職員を採用した。

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	20	最高残業時間	14	有給休暇取得率	72%
-------	----	--------	----	---------	-----

※職員の配置等で十分な支援を行える配置が出来なかったため、全員が 100%有休を取得する事が出来なかった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
3・5 月	法人防災委員会	鈴木・田澤	法人・事業所 BCP の検討と勉強会
4・11 月	苦情解決委員会	田澤	法人の苦情の円滑・円満な解決を話し合う。

5・11月	事故防災委員会	柚原	分析・集計し、事故の再発防止について検討する
年6回	自立支援NW	田澤	圏域・地域課題の検討*コロナで2回中止となる。
年3回	圏域就労部会	田澤	圏域・地域課題の検討*コロナで1回中止となる。

※その他：法人就労部会・オールスタッフミーティング・運営部会（圏域）

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ・ 作業外活動として、クラブ活動（調理クラブ・芸術クラブ）、音楽教室、ハイキング、流しそうめん（今回は流さず実施）、もちつき・カラオケ大会、お楽しみ給食を実施した。季節よっての行事を検討し、コロナ禍でも出来る事を提供した。
- ・ 受託関係の仕事で新しい作業にチャレンジする事で、利用者のやる気と自信に繋げる事が出来た。また、自主製品の作業も利用者に積極的に参加して頂き、自主製品に携われることの喜びを提供する事が出来た。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全員	会議でサービス提供指針等を読み合わせ。
6/18	内部研修	全員	施設環境の課題と改善について。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・ 会議等で、意見が言えやすい環境を提供し、チームワークの形成に務めた。（少人数での意見交換やプレストを意識した会議への取り組み）
- ・ 懇親会はコロナの影響もあり行う事が出来なかったが、福利厚生費等を活用してお弁当の購入を実施した。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	6/18	施設見学・内部研修	8	6/29	財務研修	1
法人研修	5/22	新年度研修	8	4回	SV研修	1
	3回	施設長研修	1			
施設外研修	5/24	防災研修	1	12/22	意思決定支援	1
	1/21	精神保健研修	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
毎週木	ドリームまきのはらによる、自主製品の販売。	職員1名、利用者1名（運搬）
8/21	地域のイベントに参加（対面式販売）	職員2名、利用者3名

※コロナの影響で地域との交流に対する取り組みが出来なかった。今後は感染症対策をしっかりとりつつ、イベントや地域交流に対して積極的に取り組んでいきたい。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
4/23	ハイキング	職員8名、保護者2名
8/9	流しそうめん	職員8名、保護者4名

※通常時の報告等は連絡ノートを使用して情報を共有している。

※コロナの関係で保護者会は出来なかった。

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
----	-----	-----	-----

10/8	匿名の職員	パンの味がいつもと違っていた。	施設長
10/26	GH職員	虐待の疑いについて	施設長

※パンに関しては、生地が違う時は、その都度伝える事で終了とした。

※虐待の疑いに関しては、GH施設長と相談し、GHに一任する事で終了とした

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	5	ヒヤリ	6	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：他害 5件 ヒヤリハット：危険行為 3件、他害（未遂）2件、器物破損 1件
利用者同士の接触に関する報告が多く、職員配置や利用者同士の相性の把握を徹底する必要があった。また会議で3ヶ月後の様子について報告し、評価を行った。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・ 毎月行う予定の防災訓練でしたが、コロナの状況を考慮して、行う事が出来なかった。現在、自事業所のBCPと法人のBCPとのすり合わせに取り組んでいる。
- ・ 5月1日に牧之原市で竜巻が発生し、行政に報告をした。*被害なし。
- ・ コロナに対する対応を記載した感染症マニュアルを作成した。
- ・ 事業所における感染者は出なかったが、作業環境や食事環境を改善し、感染症対策に取り組んだ。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

- ・ 今年度は取り組んでいない。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	48,463,153	4,845,552	8,601
サービス活動費用計	39,122,504	41,255,319	△2,132,815
経常増減差額	9,384,058	7,280,174	2,103,884
特別増減差額	△3,000,003	△5,000,000	1,999,997
当期活動増減差額	6,384,055	2,280,174	4,103,881

※サービス活動収益の内、寄付金収益（10,000）

2 借入金償還報告

- ・ 借入金償還報告はなし。

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

- ・ 今年度は実施していない。

M 実習生やボランティアに関する報告

見学者 10名 実習生 3名（清流館高校3名、吉田特別支援学校1名）

ボランティア 0名

見学者はコロナの状況もあり、出来るだけ少人数での見学を実施した。ボランティアに関しては、コロナの影響で受け入れはしていない。コロナが治まっている時に清流館高校の1年生の実習を行った。吉田特別支援学校の生徒は就職を目的として実習に取り組んだ。（4月より契約予定。）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・ 防災に関して、各種のハザードマップの収集を行った。（津波・浸水・液状化等）
- ・ コロナ等の感染症に対するゾーニングだが、個室を用意する事は出来たが、レッドゾーン等の動線の確保が難しく、配置等を整備する事が出来なかった。

2021（令和3）年度事業報告

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターさくら

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）
ご利用者は知的と精神及び身体的な障害を併せ持ち、その状態は高齢化も相まって、作業を遂行するにあたり、手厚い支援が必要になっている。ご利用者の作業能力を再評価し、作業工程を細分化し、評価にあった作業を提供した。固定観念を外し、様々な作業に挑戦出来るように環境を整えた。懸案だった元パン製造室（現調理室）の活用については、コロナ禍もあって地域貢献の場としての提供はできなかったが、レタスクラブの活動場所としてランチ作りやスイーツ作りで定期的に使用した。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
ご利用者へは笑顔で名前を呼んで挨拶をすることを心掛けた。コミュニケーションの機会を増やし、ご利用者の体調や、生活、困りごと等の把握に努めた。
作業室のレイアウト変更や整理整頓により、快適な作業空間の提供を行った。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
職員育成については、外部講師を招いて法人が主催したスーパービジョン研修に参加した。事例を通して、ケアの問題をご利用者中心に解決できるように、またその過程を職員に伝え導くことができるように、という目的の下、2名の主任と管理者が参加した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20 名	23 人	0 人	250 日	4508 人	18.0 人	90.2%

※

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	3	1		8
常勤換算	0.1	1.0	1.6	2.1	0.5		5.3
前年増減			+0.6	△1 (1.0)			△1 (0.4)

※職業指導員：6H パート職員 1/1 付マーガレットへ異動

※生活支援員：施設長の配置時間を変更 0→0.6（0.3 はマーガレット配置）

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	5.5	最高残業時間	2	有給休暇取得率	89%
-------	-----	--------	---	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	(あ) 全体会	正職	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、利用者状況等
毎月	(あ) 防災委員会	委員	防災訓練の振り返り、次回訓練の計画等
毎月	職員会議	全員	利用者ケース、作業状況、行事計画等
毎月	事務連絡会	秋田	会計・労務に関する情報共有
毎月	作業就労部会	河本	利用者・職員・事故・ヒヤリ・受注状況等報告他
4/21 10/26	苦情解決委員会	植野	苦情報告、G 討議・発表、第三者委員からの意見
5/25 11/4	事故防止委員会	大須賀	集計報告、取組発表、事例検討、行政報告指導
9/27	法人防災会議	大須賀	BCP について WEB 研修
7/30	吉田町 (あ) 運営委員会	河本	事業報告、事業計画及び予算の説明
10/27 2/25	吉田町福祉推進委員会	河本	地域生活支援拠点説明、福祉計画説明、事業計画

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

作業室の整理・整頓、レイアウト変更を行い、気持ちよく働ける環境を整えた。
 行事については、コロナ渦でも工夫しながら、リフレッシュや健康増進の機会を持った。
 あつまリーナ合同行事を行うことで全員を知り、全員と仲良くなる機会を提供した。
 (吉田公園ウォーキング、室内スポーツ大会、七夕飾り、夏祭り、ハイキング、クリスマス会、新年会)

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	職員会議	全員	事業計画の実施状況確認
毎月	(あ) 全体会	正職	新年度研修後の取組み実施・評価・改善

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

コロナ感染状況の悪化により、例年行っていた懇親会等の開催は中止したが、互助会の厚生事業による補助を使用し、土用の丑の日に吉田町名産の「鰻商品」を購入し配分した。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人研修	5/22	法人全体	4	7/13	労務（働き方改革）	2
	6～1月 5回	スーパービジョン 主任等の役割	2	9・11・3月 3回	スーパービジョン 管理者の働き	1
	1/27	労務（労働法改正）	2			
施設外研修	7/12	県社協ファシリテーション	1	11/16	県福祉施設職員防災	1
	11/25	女性役職者セミナー	1	12/10・17	県社協 成年後見制度	1
	1/21	県社協 精神疾患		1/26	県サビ管更新	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

コロナ感染状況の悪化により、予定されていた交流イベント等は中止となった。
 あつまリーナ館内への立ち入りを制限せざるを得なかった為、交流はなかった。
 また、公益的な取組みはしなかった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	行事予定（次月の予定・報告・連絡）	各家庭配布
年6回	さくらだより（活動状況の記事・写真入り）	各家庭配布
12/17	あつまリーナクリスマス会	利用者・職員・保護者（5）

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	17	ヒヤリ	15	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

※事 故：他害（6）転倒（5）作業不良（3）物損（2）尻もち（1）

※ヒヤリ：利用者トラブル（6）作業（3）投物（3）書類配布違い（1）転倒（1）送迎（1）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまリーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練に加え、広域避難施設「吉田町体育館」への避難訓練も実施した。

各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画を備え、避難経路の確認を行った。
 法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。
 感染症対策として、「感染症マニュアル」を備え、主に新型コロナウイルス対応については
 全職員のワクチン3回目接種終了、事業所内のゾーニング及び、発生時の対応フローを備
 えた。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告(事業活動)

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	39,384,375	41,159,474	△1,775,099
サービス活動費用計	31,364,907	36,785,969	△5,421,062
経常増減差額	8,123,833	4,382,886	3,740,947
特別増減差額	△3,000,000	△4,000,000	1,000,000
当期活動増減差額	5,123,833	382,886	4,740,947

※サービス活動収益の内、寄付金収益(350,000)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告(実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

2021年7月6日、吉田町指定管理者監査が実施された。

業務・会計・利用者状況の書類審査及び管理物品(備品)の数量チェックが行われ、
 指定管理委託料についての根拠資料の不足と町備品台帳との一部不一致が指摘された。
 根拠資料については後日再提出し、備品については「あつまりーナ備品台帳」を作成し
 12月3日、数量及び保管場所の確認を吉田町監事(議員2名)の立ち合いの下、福祉課(職
 員3名)と事業所(職員2名)で合致していることを確認した。

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生については、吉田特別支援学校高等部2年生1名が実習を行った。

常葉大学の保育実習受け入れを予定していたが、館内他事業所におけるコロナ感染の
 時期と重なり、実現はしなかった。

職場見学については、吉田特別支援学校高等部1年生6人、教員5人が施設を訪れ、見学
 及び体験を行った。

ボランティアについては、館内立ち入り制限の為、募集はしなかった。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

2021年11月26日付け及び12月10日付け監査指摘事項については是正・改善した。

固定資産取得時において「起案書(伺い)」「起案書(実施)」「検収調書」に理事長の決済日
 及び決裁印が未徴だった点を指摘された。また随意契約の合理的説明を求められた。

起案書については、遡って決裁を得た。事前に理事長決裁が必要とされる事項については、
 管理者は注意して行うことを施設管理者会や事務員会議において周知された。

随意契約については、法人全体の保守を特定業者に依頼していることから、ソフト等の継続
 時や機器の故障などの緊急時には単独随意契約となるが、通常は経理規程の範囲内で2者
 見積を行うことを管理者及び事務員に周知された。

2021（令和3）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターマーガレット

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）

ご利用者の障害特性への配慮、可能性を引き出す個々に合った取り組みを模索した一年となった。個人の選択によるお楽しみの活動を増やし、新たな気持ちで作業等に取り組めるように備品を新調した。あつまりーナの特性を活かし、ワークセンターさくらの就労体験活動を行った。生活介護でありながら、生産活動に向けた取り組みが並行出来ることの可能性も探ることができた。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

ご利用者の体調面等の把握や家庭から情報を得られるように支援日誌に特記事項を設けた。日誌は交代勤務職員が休暇明けに確認できるように A3 から A4 に縮小コピーし、毎日ファイルに閉じることで休暇日の支援内容等の確認ができ情報共有が図れた。職場環境の整理として危険予知から考えられる場所や備品の整理を行い安全な空間を確保した。不用品は破棄し必要な書類や備品が適時取り出しやすいように収容した。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

利用者支援の核となるサビ管・施設長推薦者の 2 名が法人主催のスーパービジョン研修に参加した。事例検討を通し学びが多く、リーダー育成に繋がった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20 名	21 人	△2	246 人	4920 日	16.5 人	82.3%
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
0	0	0	5	7	4	5

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	その他	合計
実人数	1	1	11	1	1	0	14
常勤換算	0.1	1	6.7	0.4	0.1	0	8.3
前年増減			△1 (1.6)				△1 (1.6)

※サビ管 1 名退職

※生活支援員：正職 1 名サビ管へ職務変更、パート 1 名退職、パート 1 名入職

3 残業と、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	12.5	最高残業時間	2.5	有休休暇取得率	100%
-------	------	--------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種 類	参加者	内 容
毎 月	あつまりーナ全体会議	正 職	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、利用者状況
毎 月	あつまりーナ防災委員会	委 員	防災訓練の振り返り、次回訓練の計画等
毎 月	職員会議	全 員	行事計画、ケース会報告・ヒヤリ事故報告等
毎 月	ケース会議	全 員	利用者ケース確認事項・検討事項
毎 月	事務連絡会	秋 田	会計・労務に関する情報共有
毎 月	生活ケア部会	河 本	利用者・職員・事故・ヒヤリ・その他報告等
4/21 10/26	法人苦情解決委員会	河原崎	各事業所の苦情に関する検討
5/25 11/4	法人事故防止委員会	河原崎	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
7/30	吉田町（あ）運営委員会	河 本	事業報告・事業計画及び予算説明
10/27 2/25	吉田町福祉推進委員会	河 本	地域生活支援拠点説明、福祉計画説明、事業計画

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・あつまりーナの特性を活かし、ワークセンターさくらの就労支援体験を行った。生産活動に向け取り組むことが、集中力やできる自信に繋がった。
- ・参加して楽しむことができる定期的な活動として、レクリエーション、音楽活動、書道教室、アートの時間を提供した。
- ・月に1度、ご利用者の楽しみに繋がる個別支援「お楽しみメニュー」、仲間意識を高めリフレッシュに繋がる「お楽しみ外出」を実施した。
- ・父の日・母の日・お世話になっている方々に「感謝の日」を設定し創作活動を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	職員会議	全員	事業計画の実施状況確認
毎月	(あ) 全体会	正職	新年度研修後の取組み実施・評価・改善

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 コロナ感染状況の悪化により、例年行っていた懇親会等の開催は中止したが、互助会の厚生事業による補助を使用し、土用の丑の日に吉田町名産の「鰻商品」を購入し配分した。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人研修	5/22	法人全体	5	7/13	労務（働き方改革）	3
	6~1月 5回	スーパービジョン 主任等の役割	2	9・11・3月 3回	スーパービジョン 管理者の働き	1
	11/2	新人オリエンテーション	1	1/27	労務（労働法改正）	2
施設外研修	7/12	県社協ファシリテーション	1	10/29	県知協 研究集会	1
	11/25	女性役職者セミナー	1	1/21	県社協 精神疾患	1
	2/5	県サビ管更新研修	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

コロナ感染状況の悪化により、予定されていた交流イベント等は中止となる。あつまりーナ館内への立ち入りを制限せざるを得なかった為、交流はなかった。
 公益的な取り組みは、コロナ禍で販売できずにいた雑巾を吉田町福祉課の窓口へ寄付し啓発活動に繋げた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	行事予定（次月の予定・報告・連絡）	各家庭配布
毎月	マーガレットだより（活動状況の記事・写真入り）	各家庭配布
8/12	あつまりーナ夏祭り	利用者・職員
12/17	あつまりーナクリスマス会	利用者・職員・保護者（5）

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	21	ヒヤリ	11	虐待	0	身体拘束	433
----	----	-----	----	----	---	------	-----

※事 故：他害（7） 外傷（6） 転倒（5） 物損（1） 車両擦り（1） 未払い（1）

※ヒヤリ：逃走（2） 転倒（2） つまずき（2） 蛍光灯外し（1） 誤食（1）
 排尿（1） 投げる（1） やけど（1）

※身体拘束：同意書あり 拘りによる人や物への突進。手や体で止める（201）
 同意書あり 車椅子利用で座位が保てない。ベルト使用（232）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 「あつまりーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練に加え、広域避難施設「吉田町体育館」への避難訓練も実施した。各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画の確認を行った。

感染症対策として、「感染症マニュアル」を備え、主に新型コロナウイルス対応については全職員のワクチン3回目接種終了、事業所内のゾーニング及び、発生時の対応フローを備えた。

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う臨時休業。
1月20日利用者にコロナウイルス感染症陽性者判明。
ご利用者の安全・安心と職員の健康を第一に考え1月24日～1月28日(5日間)休業期間として対応。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など) なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	42,486,368	46,756,035	△4,269,667
サービス活動費用計	37,471,765	38,635,045	△1,163,280
経常増減差額	5,055,863	8,149,589	△3,093,726
特別増減差額	△3,000,000	△4,500,000	1,500,000
当期活動増減差額	2,055,863	3,649,589	△1,593,726

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (57,960)

2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

2021年7月6日、吉田町指定管理者監査が実施された。

業務・会計・利用者状況の書類審査及び管理物品(備品)の数量チェックが行われ、指定管理委託料についての根拠資料の不足と町備品台帳との一部不一致が指摘された。

根拠資料については後日再提出し、備品については「あつまりーナ備品台帳」を作成し12月3日、数量及び保管場所の確認を吉田町監事(議員2名)の立ち合いの下、福祉課(職員3名)と事業所(職員2名)で合致していることを確認した。

M 実習生やボランティアに関する報告

コロナの感染拡大が続き、学生の実習受け入れは実施することができなかった。吉田特別支援学校より高等部2年生1名、高等部3年生1名の実習受け入れを行った。

ボランティア受け入れについてはコロナの感染拡大が続き受け入れることはできなかった。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

2021年11月26日付け及び12月10日付け監査指摘事項については是正・改善した。

固定資産取得時において「起案書(伺い)」「起案書(実施)」「検収調書」に理事長の決済日及び決裁印が未徴だった点を指摘された。また随意契約の合理的説明を求められた。

起案書については、遡って決裁を得た。事前に理事長決裁が必要とされる事項については、管理者は注意して行うことを施設管理者会や事務員会議において周知された。

随意契約については、法人全体の保守を特定業者に依頼していることから、ソフト等の継続時や機器の故障などの緊急時には単独随意契約となるが、通常は経理規程の範囲内で2者見積を行うことを管理者及び事務員に周知された。

2021（令和3）年度事業報告

地域活動支援センター
レタスクラブ

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
利用に際しては十分な説明と試行を重ね、本人が安心して利用できるように配慮した。
精神保健福祉士1名と非常勤支援員1名を常時配置し、当事者の困りごとの相談対応や、グループワーク等を通して交流の機会を提供した。
各々の支援については、関係機関と連携を取りながら進め、本人にとっての安らぎの居場所になるように努めた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
法人サービス提供指針に基づき、ご利用者の意志を尊重し意向に配慮した対応を行った。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
職員育成については、正規職員の病欠があり、法人が主催したスーパービジョン研修に参加することは出来なかったが、あつまりーナ全体会議等を通して情報を得た。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	登録者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
一名	23人	0人	239日	1485人	6.2人	27%

※

2 職員状況

	施設長	生活支援員	事務員	その他	合計
実人数	1	3	1	0	5
常勤換算	0.0	1.75	0.0	0	1.75
前年増減					

※

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	0	最高残業時間	0	有給休暇取得率	93.1%
-------	---	--------	---	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	(あ) 全体会	正職	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、利用者状況等
毎月	(あ) 防災委員会	委員	防災訓練の振り返り、次回訓練の計画等
毎月	職員会議	全員	利用者ケース、作業状況、行事計画等
毎月	事務連絡会	秋田	会計・労務に関する情報共有
4/21 10/26	苦情解決委員会	植野	苦情報告、G 討議・発表、第三者委員からの意見
5/25 11/4	事故防止委員会	大須賀	集計報告、取組発表、事例検討、行政報告指導
9/27	法人防災会議	大須賀	BCP について WEB 研修
7/30	吉田町 (あ) 運営委員会	河本	事業報告、事業計画及び予算の説明
10/27 2/25	吉田町福祉推進委員会	河本	地域生活支援拠点説明、福祉計画説明、事業計画

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

ご利用者の適性や状況に応じて柔軟に実施した。
ストレッチ、脳トレ、映画鑑賞、卓球、菜園作業、ランチづくり、グループワーク、当事者研究、個人面談 等

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	職員会議	全員	事業計画の実施状況確認
毎月	(あ) 全体会	正職	新年度研修後の取組み実施・評価・改善

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 コロナ感染状況の悪化により、例年行っていた懇親会等の開催は中止したが、互助会の厚生事業による補助を使用し、土用の丑の日に吉田町名産の「鰻商品」を購入し配分した。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
法人研修	5/22	法人全体	4	7/13	労務（働き方改革）	2
	1/27	労務（労働法改正）				
施設外研修	11/16	県福祉施設職員防災	1	11/25	女性役職者セミナー	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

コロナ感染状況の悪化により、予定されていた交流イベント等は中止となった。
 あつまリーナ館内への立ち入りを制限せざるを得なかった為、交流はなかった。
 また、毎年行っていた海岸及び河川土手の清掃についてはコロナ感染対策として衛生面を考慮し行わなかった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	行事予定（次月の予定・報告・連絡）	各家庭配布

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※毎月職員セルフチェックシートを用いて自己を振り返り、虐待防止に努めた
 また、法人虐待委員会にて各事業所の取組みを共有した。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまリーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練に加え、広域避難施設「吉田町体育館」への避難訓練も実施した。
 各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画の確認を行った。
 感染症対策として、「感染症マニュアル」を備え、主に新型コロナウイルス対応については全職員のワクチン3回目接種終了、事業所内のゾーニング及び、発生時の対応フローを備えた。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告**1 収支報告（事業活動）**

科目	2021年決算	2020年決算	増減
サービス活動収益計	5,357,715	5,357,021	694
サービス活動費用計	5,554,990	5,357,178	197,812
経常増減差額	△197,257	△142	△197,115
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	△197,257	△142	△197,115

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 43,907 ）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

吉田町へはご利用者の実績及び状況等を毎月報告した。

指定管理監査についてはワークセンターさくら同様である。

M 実習生やボランティアに関する報告

不定期ではあるが、星いきいき財団の職員がボランティアとしてランチ作りのお手伝いに来てくださった。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

なし

2021（令和3）年度 事業報告

相談支援事業
生活支援センターやまばと

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）

地域生活支援拠点等における各機関との連携については、定期的に行い相談機能としての取り組み、具体的内容について協議をしている最中である。

内部での OJT・質の向上に繋がる検討を意識的に行った。法人内外事業所を事例検討の機会を持ち、本人中心支援を学ぶ企画を行った。その結果、相談支援が円滑に行う事ができたケースも多々あった。

地域啓発交流会を企画するが、コロナ感染症の為、実現ができなかった。次年度へ持ち越している。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

『常に利用者の立場に立ったサービスを提供するために取り組んでいく』為に、定期的な事例検討、外部事業所との本人中心支援の学びを重点的に行った。

不適切と思われ支援に関し、センター内定例会で共有・確認を行い、必要に応じた各機関への働きかけをする事ができた。本人中心支援・本人権利について学ぶ機会を持たた。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告（理念の基づく実践・職員育成・職場環境整備）

地域の実状を法人と共有する機会を、施設管理者会・生活ケア部会等でもっていたが、有効に機能させることは充分とは言えなかった。

人事に変動がなかった為、新規相談を受ける事等で職員育成に繋がった。

集中して業務に取り組める環境設定を心がけているが、継続して検討が必要。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

① 特定相談支援事業実績（作成件数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画	35	28	35	21	27	23	24	21	20	29	33	23	319
モニタリング	68	77	73	64	72	85	71	86	85	74	68	92	915
計	103	105	108	85	99	108	95	107	105	103	101	115	1,234

② 委託相談支援事業実績（支援件数）

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別会議	関係機関	その他	計
牧之原市	81	97	18	400	5	25	1166	226	2,018
島田市	141	65	39	438	352	110	1464	210	2,819

2 職員状況（人）

	施設長 (相談支援専門員)	相談支援専門員 (計画専任)	相談支援専門員(兼務)	事務員	合計
実人数	1	4	3	1	9
常勤換算	委 0.85 計画 0.15	4.0	委託 2.4 計画 0.6	0.3	8.3

専門職：社会福祉士 6 名 精神保健福祉士 2 名

※委託相談 牧之原市：2 人工 島田市：1.25 人工 ※特定相談 4.7 人工

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	985.2時間(月 12.02時間)	最高残業時間	29時間	有給休暇取得率	41.41%
-------	--------------------	--------	------	---------	--------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎週水曜	センター定例会	全員	ヒヤリ・事故報告 事例共有・検討等
随時	法人内会議	担当	施設管理者会(田村)苦情解決委員会(田村)ヒヤリ事故委員会(田平)防災委員会(原)労務委員会(大石)
毎月	牧之原市協議会関係	田村・鈴木 伊藤(石神)	地域実状に応じた体制整備について協議協議会・各部会の企画運営
毎月	島田市協議会関係	田村・北川 (大石)	地域実状に応じた体制整備について協議協議会・各部会の企画運営
毎月	吉田町相談支援部会	田平・原	相談支援部会に参加。地域課題等を提起。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

地域啓発交流会を企画したが、コロナ感染症状況により、実現しなかった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼でやまぼと50年記念誌の読み合わせ
4月2月	実践計画書説明・評価	全員	今年度計画書に基づく事業運営状況の説明・進捗状況の確認及び評価
12月頃 随時	自己評価・施設長面談	全員	

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
お互いストレングス視点で学び合いねぎらう時や交流会の機会をもった。
朝礼時にケース相談に時間を持つこと等、気軽に相談できる環境を継続している。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修		S V研修	8	年8回	事業所事例検討	3~8
法人研修	4月	新年度研修	8		施設長・主任研修	2
施設外研修	1月	虐待防止(相談窓口)	2	10月	相談従事者(現任)	1
	8月	県重症児者医ケア児	1	9月	県強度行動障害	2
	9月	等C o		11月		

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

地域啓発交流会を企画したが、コロナ感染症状況により、実現しなかった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

特定相談(計画相談)委託相談で常に家族と連携・連絡をしている。
地域啓発交流会を企画したが、コロナ感染症状況により、実現しなかった。

G 苦情とその対応に関する報告

苦情 0件

法人内事業所に、苦情を通し質の向上ができるような働きかけを行った。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	7	ヒヤリ	7	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

センター内でのヒヤリ苦情事故等の検証を行っている。

公用車の事故が4件あった為、交通ルールを厳守し、車の運転に注意を促した。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

在宅支援時の指針となるよう、生活支援センターやまばと防災BCP（緊急時の動き）を作成した。感染症BCPと合わせ、次年度完成予定とする。

防災ハザードマップに特定相談・委託相談対象の方の住所を確認し、危険個所の共有を行った。

手洗い・手指消毒・うがい・マスク着用など感染症対策をし、自己予防に努めた。

県・市町・法人・支援センター感染症対策に沿って、在宅支援に取り組んだ。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

寄付で頂いた公用車アルト劣化の為、公用車ミライースをリース契約した。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	40,996,200	41,014,368	△18,168
サービス活動費用計	42,162,945	40,112,128	2,050,817
経常増減差額	△1,166,604	904,176	△2,070,780
特別増減差額	△2	1	△3
当期活動増減差額	△1,166,606	904,177	△2,070,783

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0）

2 借入金償還報告

特になし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

常に委託相談支援事業・計画相談支援事業共、市町と連携して行っている。

M 実習生やボランティアに関する報告

社会福祉士実習生はなかった。

社会福祉士実習指導者研修フォローアップ研修参加1名 履修者2名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2021（令和3）年度 事業報告

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
介護予防短期入居生活介護
特別養護老人ホーム 聖ルカホーム
聖ルカショートステイ

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）

施設目標である「ご利用者、ご家族、職員に笑顔の花を咲かせたい」の実現のため、日々のケアに取り組むことができた。コロナ禍という大変厳しい状況ではありましたが、ご利用者の状況に合わせた支援を心がけた。聖ルカホームは、ご家族との関りを大切にしてきましたが面会制限を度々行わなくてはならない状況やご家族を交えた行事は行えず、会えない不安をどの様に軽減できるかが課題でした。地域の感染状況に応じ、面会再開をできる限り素早く判断すること、毎月の“聖ルカだより”の充実、普段から電話等で体調変化などの報告する取り組みをした。一方、職員につきましても自分が感染させてしまうのではないかとという大きなストレスの中での就業となった。2022 年 2 月、ショートステイご利用者からの感染により 7 名が罹患し多くの方々にご心配をおかけすることとなった。感染拡大を抑えるため、また、限られた職員でのケアを行わなければならない事態ではございましたが、全職員が協力し合えたことは大変な感謝です。

2021 年 6 月には、法人として初めてインドネシアからの E P A 生の受入れをした。ご本人の努力と、職員のきめ細かな対応で日本での生活や聖ルカホームでの就業に大きな問題もなく 9 か月を過ごすことができた。最終目標は国家資格の取得ですので、引き続き施設としてバックアップしていきます。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

委員会や会議等で「サービス提供指針」の唱和を必ず行った。法人 50 周年記念誌の『それでも一緒に歩んでいく』を読み、法人の歩みを知り自分たちのこれからについて考える研修を行った。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

理念の浸透と実践は、上記 2 のとおりです。聖書の学びは実施できませんでした。

職員の育成については、積極的に研修参加が出来た。参加者については、研修内容合わせ役職や職種ごと適切にまた偏りのないように決定した。報告書の作成回覧により、参加出来なかった職員への周知をおこなった。

職場環境の整備については、感染防止の観点からも清掃消毒を徹底した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

(1) 長期入所（定員 70 名）

2022 年 3 月 31 日現在

現員数	69 名	平均介護度	3.9
最年長	102 歳	介護 1	0 名
最年少	62 歳	介護 2	1 名
平均年齢	85.68 歳	介護 3	28 名
年間稼働率	97.8%	介護 4	19 名
入居者数	15	介護 5	22 名
退去者数	15	待機者数	29 名

(2) 短期入居者（定員 10 名）

実利用者数	延利用者数	年間平均稼働率
461 名	2,678 名	73.4%

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備 考
施設長	1名	1.0	さふらん管理者兼務
事務長	1名	1.0	高齢者事業部
副施設長	2名	—	看護主任、事務主任兼務
相談員・ケアマネ	4名	3.23	
介護員	53名	41.89	
看護師	5名	3.57	
管理栄養士	1名	1.0	グレイス兼務
事務員	4名	2.235	真菜、さふらん、オリーブ、ぶどうの木兼務
介護補助員	3名	1.1	
宿直員	3名	1.0	
清掃員	2名	0.2	さふらん兼務
嘱託医師	1名	0.1	

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	5,635時間10分	有給休暇取得率	51.3%
-------	------------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
毎 月	経営会議	施設長・副施設長・主任・事務長	施設運営全般、職員教育、全体行事、課題解決 等
4月 7月 10月 1月	ケア向上委員会	経営会議メンバー・エグゼクティブ・相談員・栄養士	経営会議の決定事項の周知、ユニットの課題や現状報告・業務改善すべき事項・ユニットケアの推進・看取りケア 等
同上	安全対策委員会	同上	事故・ヒヤリの検討、啓発、研修
同上	身体的拘束適正化委員会	同上	身体拘束に関する事、研修
同上	虐待防止対策委員会	同上	虐待防止に関する事、研修
同上	感染症等対策委員会	同上	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事
同上	褥瘡対策委員会	同上	褥瘡の予防、改善等に関する事
2ヶ月毎	職員会議	全職員	情報共有・研修 等
毎 月	衛生委員会	産業医・衛生管理者・施設長・他	職員の安全衛生、健康管理、ストレスチェック 等
毎 月	ユニット会議	各ユニット職員・他職種代表者	ご利用者の処遇検討、業務改善、研修等
毎 月	メンテナンス会議	各部署代表者	施設設備、備品、介護用品の整備
毎 月	防災対策会議	各部署代表者	防災訓練等の計画・実施
3ヶ月毎	優先入所検討会	外部有識者・施設長・その他職員	入所申込者(待機者)の入居順位を検討し決定する

C 利用者の喜びのために工夫したこと

行 事	内 容
趣味教室の開催	習字、体操を希望者に提供
展示会への参加	趣味で作成した作品を展示会に出品
和菓子作り	和菓子職人だったご利用者が他のご利用者に技を披露し茶話会

パワーアレンジメントコンテスト	ご利用者と職員が協力して作成しユニット対抗のコンテスト
外出	無人販売に出かけ買い物をした
移動販売車での買い物	移動スーパーを依頼し買い物を楽しむ
ユニット調理	お寿司作り、おでん作り、お菓子作り、採れたて野菜を調理
全体行事	敬老会、クリスマス会、餅つき

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	サービス心得の読み合わせ
毎 月	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振返り次月に繋げる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ①職員会や各種会議では、役職や身分に関わらず誰もが発言できるように“会議の目的”を毎回確認し合った。また、小グループでの話し合いの機会を多く設けた。
 ②日常のご利用者や職員の様子を写真に撮り、ユニット対抗フォトコンテストを開催。笑顔の写真や何気ない表情を写真に収め、作品を展示した。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	5/31	理念研修	33	6/24	認知症研修	25
	8/26	新入職員研修	5	10/28	排泄ケア	34
	11/16	新入職員研修	5	12/27	食事ケア	29
	2/16	新入職員研修	1	3/23	感染症対策	30
	※ その他、ユニット会議等にてオンライン研修を受講					
法人研修	4/1	新人オリエンテーション	5	5/22	新年度研修	9
	6/30 他	スーパービジョン	17	7/13	労働基準法研修	6
	11/2	新人オリエンテーション	8	1/24	労働基準法研修	4
施設外研修	5/27	接遇・マナー・コミュニケーション	1	6/1	安全対策担当者養成研修	4
	6/25	社会保険セミナー	1	7/28	実地指導対策	3
	8/6	身体拘束廃止	2	8/5	看護職員研修	1
	8/5	B C P 知識と準備	2	10/7	防火管理者新規講習	1
	8/13	セルフリーダーシップ	2	8/20	相談員支援力アップ	2
	9/10	栄養講座	1	9/27	心と体を癒すタッチケア	2
	9/28	介護実践	2	10/18	認知症基礎研修	1
	10/16	栄養管理のポイント	1	10/27	ケアマネジメントプロセス	1
	11/24	地域保健福祉研修	2	12/17	医療的ケア教員講習	1
	12/10・17	成年後見制度	1	2/7	高齢者虐待予防と対応	2
	2/2	看取りの実践	2	3/22	認知症介護	2
	2/21	リスクマネジメント	2	4/12 他	E P A 関係	12
	4/15 他	コロナ感染関係	5	6/21 他	会計研修	9
	2/6 他	資格取得関係	10		その他	7

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
	サロン送迎	職員 2 名
	社会福祉法人減免実施	—
3/30	地域との防災連携について話し合い	地域役員 2 名、職員 2 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月 20 日	聖ルカだよりの発行	職員全員
8/20	ご家族アンケートの実施	相談員

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
9/10	利用者家族	ショートステイご利用者の排泄情報が更新されていないため、適切なケアが出来なかった	相談員

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	186	ヒヤリ	98	虐待	0	身体拘束	2
----	-----	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	項目	内 容	参加者
毎月	防災訓練	避難訓練、災害時食事提供訓練、消火訓練	職員全員対象

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）
なし**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

1 収支報告（事業活動）

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増 減
サービス活動収益計	399,599,151	396,903,359	2,695,792
サービス活動費用計	407,689,670	396,459,200	11,230,470
経常増減差額	△10,695,009	△2,173,650	△8,521,359
特別増減差額	△2,681,622	△10,185,659	7,504,037
当期活動増減差額	△13,376,631	△12,359,309	△1,017,322

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 180,000 円 ）

※ショートステイユニットでのコロナ感染があったため、2/7～13 の利用調整を行った。
支出については、一部静岡県からの補助金で賄うことができた。

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014.10.7	0.57545	10年	静岡銀行	95,000,000	21,266,700	73,733,300
2014.10.7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	427,500,000	88,472,355	339,027,645

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）
なし**M 実習生やボランティアに関する報告**

- 1 実習 ①静岡福祉医療専門学校（介護実習） 1名 ②常葉大学（栄養士実習） 1名
- 2 ボランティア ①日赤奉仕団（草取り・福祉用具清掃）5回
②JA女性部どんぐり（ウエス切り）9回

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）
なし

2021（令和3）年度 事業報告

地域密着型介護老人福祉施設
入所者生活介護
特別養護老人ホームグレイス

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）

コロナ禍2年目の年、継続して感染症対策が必要となる中、年度初めの医務職員入れ替わりは施設としては大きな出来事でしたが、法人全体の協力もあり新型コロナワクチン接種等、無事に行うことができ、職員全体が感染予防の意識を高く持って行動できた。「身体拘束・虐待」に至らない「適切ケア」の時点で改善しようという考えが、今まで以上に職員に認識され、現場からの声で早期の対応が行えるようになり、ケアの質の維持は図れたが、自立支援・より良いケアの追求・施設に関わる全ての人の満足度の向上といった点では課題が残りました。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

「ともに生きる」という理念、「その人らしさに深く寄り添う」という方針のもと、小さなことからですが、利用者の願いの実現を具体的に取組みました。地域との関係の中で利用者の暮らしが入居前の暮らしと連動した営みになるよう努めたが、感染症の影響は大きく、地域との交流場面などは限られたものになった。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

理念を施設内に掲示し、全体職員会議でサービス提供指針・服務心得等読み合せを継続し、利用者・家族・職員・地域とともにその方に喜びを与える支援に努めました。職員の資格取得を推奨し、介護支援専門員実務研修受講試験・介護福祉士試験に各1名が合格。オンラインでの外部研修受講は21回、YouTubeでの身体拘束廃止フォーラムは全職員が受講。認知症介護基礎研修についても無資格職員全員が受講。介護支援専門員等の資格取得研修等と時期が重なった法人SV研修は途中より参加が叶わなかった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
29	29	0 (退所10 入所10)	365	10405	28.5	98.3%
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
		1	0	12	9	7

2 職員状況

	施設長	相談員 (ケアマネ)	看護師	介護員	事務員	清掃員	合計
実人数	1	1	3	23	2	1	31
常勤換算	0.75	1.0	2.8	19.21	1.35	0.15	25.26
前年増減	0	0	+0.2	+0.83	+0.1	0	+1.13

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	2314:16	最高残業時間	353:25	有給休暇取得率	60.3%
-------	---------	--------	--------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
年2回	法)防災委員会	2名	研修、事業所BCPの検討、本部BCPとの連携
年2回	法)苦情解決委員会	1名	苦情解決経緯・対応等の検討、第3者委員
年2回	法)事故防止委員会	1名	集計報告、事故の原因究明と再発防止策、評価
8/18	法)虐待防止委員会	1名	事例報告、対策について検討、各施設の取組
月1回	恵の丘職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討

月1回	経営運営会議	8名	恵の丘3事業所全体の運営について検討
月1回	リーダー会議	4名	各ユニットの報告・ケアの検討、リーダー研修
月1回	各ユニット会議	10名	ユニット内のケアについての認識を共有
年12回	感染対策委員会	6-7名	感染症及び食中毒まん延防止の為の対策検討
年6回	褥瘡予防・ケア連携委員会	6-7名	褥瘡発生のリスクの評価、徐褥瘡発生予防の対策検討。吸引等医療的ケアの安全な実施の検討
年6回	安全対策委員会（リスク・虐待・身体拘束）	6-7名	介護事故発生の防止、再発防止の対策の検討 虐待等の発生防止・早期発見・再発防止の検討 身体拘束の適正化のための対策を検討
年6回	運営推進会議	11名	施設の運営実績の報告、地域との連携等の検討

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・事務職員による出張カフェ、施設周辺に植えた花や施設内観葉植物を楽しみながら散歩
- ・感染対策に配慮しながら、屋外での秋祭り・餅つき行事の開催
- ・誕生日前に利用者の叶えたいことを聞き取り、自宅に帰る・お墓参り・家族と食事・自分で焼いた餅を食べる・YouTubeの大衆演劇を大画面で見るなどを実現

D 職員の喜びや成長のために実践したこと ※今までにない視点となる。意識した活動を

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
年12回	理念・就業規則輪読	全員	恵の丘職員会議で理念・就業規則の読み合せ
11月	実践計画書評価	主任	進捗状況の確認及び評価

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して下記のことを行った。

- ・併設事業所含め施設内全体での七夕ロード・クリスマスロード作り
- ・各委員会の合同開催で情報の共有
- ・秋祭り、年末の楽笑会では職員が手洗いダンスや仮装・ラインダンス等を披露するなど工夫を凝らし、良いチームワークで行事を行えた。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	4/1	リーダーの役割	4	4/22	片麻痺者介護 ケアの根拠	10
	計2回	新人研修	4			
	5/26	看取り、非常時対応	17	6/24	食中毒、リスク、嘔吐処理	17
	7/22	介護技術、Bcp、他	17	8/26	感染症、防護服、事故	20
	9/24	BCP、褥瘡	23	10/28	虐待、排泄、身体拘束	17
	11/25	嘔吐処理、認知症等	17	12/17	吸引、法令順守、虐待	16
	1/27	感染シミュレーション、認知	18	2/24	個人情報、看取り、他	18
	3/24	身体拘束、医療介護	20			
法人研修	4/1	新人オリエンテーション	2	5/22	新年度研修	4
	7/13	労務：働き方改革	1	6/22	コミュニケーション	4
	6/30	SV研修（1）	3	8/25	SV研修（2）	2
	計3回	SV管理者研修	1	1/24	労働雇用関連法改正	2
施設外研修	5/24	防災研修	1	計4回	認知症介護基礎研修	5
	計7回	看護師研修	1			
	年1回	防火管理者	1	計3回	安全対策担当研修	3
	年2回	救命講習	19	計2回	業務定着・人材育成	2
	12/16	認知症	1	11/24	個人情報・改正保護法	1
	12/10	褥瘡皮膚ケア	1	12/21	転倒予防講座	1
	1/12	事業所のBCP	1	12/11	科学的介護LIFE	1
	2/7	高齢者虐待	1	2・3月	身体拘束廃止	全員

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
6/19	生活困窮者への食糧支援	全員
年 2 回	坂部ふれあいサロンにて遊びリレーション	2 名
1 年間	社会福祉法人等利用者負担軽減での施設サービス提供	3 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年 6 回	運営推進会議（書面会議 4 回、対面会議 2 回）	職員、家族・地域・行政代表
年 1 回	家族アンケートの実施	家族全員

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
11/29	利用者	就寝前の拘りを伝えたが対応してもらえなかった	介護員・施設長

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	30	ヒヤリ	80	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

グレイスの防災訓練を 11 回実施。避難訓練、防災機器・備蓄食品の取り扱い等を行った。昨年未実施の飛散防止フィルム工事実施。5 月に市内に突風による建物被害・停電等が見られたが利用者・職員・施設に直接の影響は無かった。

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済状況

1 収支状況（事業活動）

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増減
サービス活動収益計	156,411,999	151,703,169	4,708,830
サービス活動費用計	147,759,576	163,952,502	1,411,793
経常増減差額	8,716,745	△12,152,603	3,264,629
特別増減差額	30,000	21,317,758	△212,876,758
当期活動増減差額	8,746,745	9,165,166	△18,023,129

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 65,000 ）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）

H29 年から休止中であったグレイスショートは人材不足の解消が見込めず、指定更新手続きが行えないことから、廃止の方向で牧之原市・県福祉指導課と調整を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生なし。コロナ禍の 2 年で活動を終えられたボランティアグループが多くみられた。個人による屋外環境整備、日赤奉仕団による清拭作り等により大変助けられた。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

事故報告書の評価欄の記入漏れがあったため、対策記入から 1 ヶ月半以内で評価を実施とし、事故防止委員会をはじめ職員全体に再度周知した。
災害時避難場所等、法人内でしっかりとすり合わせをしておくとの助言があり、法人防災委員会へ意見として提出。年度内解決には至っていない。

2021（令和3）年度 事業報告

養護老人ホーム
相寿園

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
「利用者の立場に立ったサービス提供」や「利用者の意思決定支援」などの活動方針は、不十分な点はあるものの、おおむね職員の意思統一がなされ、具体的な支援に生かされてきた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
「利用者一人ひとりを大切な人として重んじて支援をする。」という当たり前ながら、職員が常に意識する必要がある職場である。利用者から厳しい課題を突き付けられたこともしばしばあったが、その都度職員が話し合い、工夫を重ねながら利用者中心の支援を目指そうとする努力を重ねてきたことが何よりの収穫であった。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
相寿園に就職して3年未満のパート職員が6名もいる現状があるため、特に「職員育成」として県社協はじめ関連団体の研修には新入職員に積極的な参加を求めた。幸いオンライン研修が主流であったため新入職員だけではなく中堅、ベテラン職員にとっても研修のチャンスを得ることができた。

B 利用者と職員の状況報告（実績）

1 利用実績

措置入所定員	3月措置者数	契約入所定員	3月契約者数	延利用者数	月平均	利用率
55	32	5	5	940	30.4	57.0%
介護区分なし	要支援	要介護1～2	要介護3～5	知的障害	身体障害	精神障害
26	1	7	3	1	6	7

2 職員状況

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1	1	(1)	6	1	1	10
常勤換算	1	1	(1)	2.6	0.75	1	6.35
	栄養士	事務員	夜勤専門員	宿直補助員			
実人数	1	1	3	6			11
常勤換算	1	1	1.51	3.24			6.8

※副施設長は主任を兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	1281:4	最高残業時間	211:5	有給休暇取得率	64.9%
-------	--------	--------	-------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月1回	職員会議	全員	施設管理者会及び高齢者部会報告、法人理念の確認、研修報告等。
毎月1回	支援会議	全員	行事の計画、利用者の支援についての話し合い等。
毎月1回	ケアプラン会議	全員	年1回の利用者個別ケアプラン作成のための検討。
毎月1回	給食・献立会議	栄養士、主任、委託業者等	給食や献立に関するトラブルや問題点、課題の検討。また、食事に関するアンケートの取りまとめと考察。
毎月1回	防災委員会	副施設長、支援員	毎月1回開催する防災訓練（避難訓練）の計画立案。
年6回	感染症予防対策委員会	施設長、主任、看護師等	感染症の予防と対策、新型コロナ感染症の現状確認、ワクチン接種の予定と段取り等の検討。
年6回	事故防止対策委員会	施設長、主任、看護師等	ヒヤリハット、事故の振り返り及び対策の確認。
年6回及び随時	身体拘束廃止委員会、虐待対応委員会	施設長、主任、看護師等	身体拘束が必要かどうかの検討。虐待防止のチェックリストの実施等。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ・月1回のカラオケの時間を入浴のある日に重ね、週3回実施するようにした結果、利用者には大変喜ばれている。
- ・利用者からの希望があり、職員と話し合いながら、梅、モクレン、きんもくせい。ロウバイ等々15種以上の植木を購入し、建物の周りに植樹した。水やり、雑草取りなども利用者が積極的に行っている。今では利用者、職員が一緒にその成長を楽しみにしている。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	ケアプラン会議	全員	ケース検討を丁寧に行い、アセスメントする力を養う。同時に、愚痴や弱音も吐ける場となるよう工夫した
不定期	職員会議	全員	「イエスが処女から生まれたって本当ですか?」というような疑問から始まる「キリスト教入門」的な冊子を活用して聖書の教えを学び、法人の理念と現実の仕事との関連を考える機会を持った。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

毎朝の引継ぎの時間、職員会議、ケアプラン会議等々においては、具体的支援の際の苦勞を共有できる時間にしたいと考えている。利用者との関係においては、力強い成功例よりもうまいかない中でのうっぷんや怒り、悲しみ、そしてささやかな喜びなどが共有できる場にしたいと考えてきた。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	種別	日付	内容	人数
県老協中部地区連絡協議会	5月～3月	施設長、相談員、支援員、栄養士、看護師対象の各課題検討会	合計5	外部研修	8月～3月	【静岡県社協】転倒予防講座 苦情解決 高齢者虐待の予防等々	15
	5/22	新年度研修	4		【全老協】 ・全国老人福祉施設大会 ・困難事例検討会等々	3	
	6月～3月	SV研修 施設長、主任	2				
法人研修	11/2	新人職員オリエンテーション	5	1月～2月	島田職業安定所、愛恵福祉支援財団	2	
	外部研修	6/4	日本キリスト教社会事業同盟	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
随時	自主短期宿泊制度	毎月平均4名利用
12月	地域防災訓練の集合場所として駐車場の提供	約60名の地域の親子が参集

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月1回	相寿園だよりを発行し、家族や関係機関に発送	約100部

G 苦情とその対応に関する報告

日付 誰から 内容 対応者 なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	39	ヒヤリ	71	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災訓練は毎月1回、地震想定、火災想定、夜間想定など様々な想定の上で実施している。
また建物が浜岡原子力発電所から直線距離で10km未満の場所に立地しているため、原子力災害を想定した訓練を行政関係者や設備関係の業者と共に年2回実施している。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告**1 収支報告（事業活動）**

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	112,795,798	111,924,520	871,278
サービス活動費用計	107,747,133	107,716,983	30,150
経常増減差額	5,557,748	4,564,968	992,780
特別増減差額	△1,997,000	△1,986,200	△10,800
当期活動増減差額	3,560,748	2,578,768	981,980

※サービス活動収益の内、寄付金収益（10,000円）

2 借入金償還報告

契約年月日 利率 期間 金融機関 借入額 償還額 残額 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）**1 静岡県による指導監査**

- ・日時：令和3年年10月12日
- ・場所：相寿園会議室
- ・結果：改善指導事項なし
助言指導事項…「令和2年度に1件、令和3年度に3件の誤投薬による事故が発生しているため、投薬のマニュアルやチェックリスト等の見直しを行い、再発防止に努めること。」
(令和3年11月29日)
- ・助言指導事項への対応…「薬の管理・投薬及び包薬・配薬についてのマニュアル」を新たに作成し、支援会議、職員会議の際に職員全員に周知徹底した。」(令和3年12月1日)

2 相寿園指定管理者中間評価（指定管理者が施設の設置目的に沿って適切に管理施設を管理運営していることを牧之原市が確認するもの。）

- ・日時：①令和3年9月30日…現地確認（牧之原市指定管理者選考委員会）
②令和3年10月18日…ヒアリング（ ）
- ・結果：「合格基準を満たしており、適切に施設を運営管理されている。」
「今後も引き続き法人のビジョンと理念を念頭に、利用者や施設職員の声に耳を傾け、きめ細やかな管理及び運営をお願いする。」

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・実習生はなし。
- ・毎年4月に牧之原市人権擁護委員会のメンバーがひまわりの種の植付けに訪問されている。ボランティアの訪問はその1件のみ。

N その他

特記事項なし

2021（令和3）年度 事業報告

養護老人ホーム
島田市立養護老人ホームぎんもくせい

A 2021 年度目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告(総括)
 - ・スローガンは、「良いケア、良い施設」。目標は、「良い引き継ぎ」。
 - ⇒全く出来なかった。夏に主任支援員が退職し、その補完で精一杯であった。十分な引き継ぎも無いまま、次期主任支援員も主任相談員も足りない職員の穴埋めに奔走した。また、少ない現場職員で長く回した為か、支援現場の業務や役割の簡略化や分担を他部署に移したがる傾向が見られた。定型的な業務の遂行で手一杯な状況長く、利用者個々のテーマに沿った処遇を検討する処遇会議が、実質開けなかった。次年度、改善を検討したい。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
 - ・エデンオルタナティブの資料で、職員会で各人に感想を求めた。「理念は素晴らしいと思うが、併せて適切な職員配置と、必要なスキルの獲得が求められなければ実現しない」という意見があった。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - ・「理念の浸透と実践」については、求められたエデンオルタナティブの資料読みがせいぜいで、取り立てた取組みは出来なかった。
 - ・「職員の育成」については、主任や副施設長への法人研修への参加を求めたが、上述1の秋の主任支援員の退職に伴う人出不足や度重なる事故などのため、資格取得やその他研修参加などの促しが出来なかった。
 - ・「環境整備」については、市と協議しつつ、適宜計画的に行っている。しかしながら、折からの世界的な半導体不足で、計画されつつも実現に至らなかったものもある。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

措置入所定員	3月措置者数	契約入所定員	3月契約者数	年延利用者数	月平均	利用率
52	37	10	0	488	40.7	81.4%
区分なし	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害
1	4	10	1	5	6	3

※3障害については、手帳の有無を根拠とする。区分には重複があり得る。3月の月初数。

2 職員状況

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1	0	2	12	2	1	
常勤換算	1.0	0	2.0	6.5	1.1	1.0	
	栄養士	事務員	宿直員	その他			
実人数	1	1	3	2			25
常勤換算	1.0	1.0	2.3	0.9			16.8

※3月の月初配置数。主任職は、主任にのみ計上。兼務は、主要職のみ実人数に計上。

3 残業、有給休暇取得状況(年間累計)

総残業時間	674.5	最高残業時間	212.5	有給休暇取得率	60.9%
-------	-------	--------	-------	---------	-------

・特に、2人の主任に負担が集中し、満足に公休を消化できない月もあった。新型コロナウイルス感染症蔓延や体調不良職員のフォロー、なにより夜勤専門員の確保がままならなかったことを背景とした職員不足によると考えている。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催頻度	種類	参加者	内容
月1回	職員会	各10～13名	懸案検討、連絡事項、事故等報告、法人報告等
月1回	主任会議	各3名	施設長、主任相談員、主任支援員による検討会
3月1回	各部との会議	各2～4名	事務、支援員、相談員、医務、調理等の各部会議
月2回	法人経営会議	施設長のみ	法人の主要懸案への意見具申
月1回等	法人委員会	各1～2名	研修委員会(毎月)、栄養士会(3月に1回)
年2回	中公養護会	各1～2名	総会など昨年に続いて、書面にて決議とした。
年9回	県給食協会	各1～2名	志太榛原支部役員会年間3回、県理事会年間6回 但し、総会は昨年に続いて書面決議とした。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

・新型コロナウイルス感染症の蔓延状況の間を縫って、クラブ活動を再開した。(習字クラブ、折り紙クラブ、絵手紙クラブ、笑いヨガ、転倒予防教室)

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 法人職員として、あるいは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
 - ・特になし *特にリモートも含め外部研修等に支援員を参加させることが出来ず、配置を満たすことが精一杯であった。
- 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
 - ・特になし *残念ながら、主任支援員が9月に退職した後、新たな主任支援員にチームワークやコミュニケーションを学んでもらう機会を設けることができなかった。

3 研修

種別	回数	内容	人数	内容	人数
法人/理念系	11	新年度研修、SV研修	15	新人オリエン	3
		主任、管理者階層研修	2		
中公養護研修	7	施設長、栄養士、事務	10	施設長+相談員	2
		相談員、支援員、			
内部研修	5	技術、事故、障害等	24	虐待	6
その他	1	防災関連	1		

・法人理念系の、特に主任職対象の研修が多く開催されたが、内部研修も含めて主任支援員や支援員の参加が、配置の余裕なく得られなかったことが残念。次年度は、多少とも改善していきたい。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

・法人の責任において、市の短期事業を利用できない要介護度のある65歳上の方々に対して同様な短期宿泊事業を実施した。市の短期事業延べ6日、自主短期事業延べ7日とあまり利用は進まなかった。今後、より使いやすいように条件面の検討していきたい。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
11/20	保証人会(活動の報告、利用状況報告など)	職員3名、保護者等23名

・保証人等やご家族に、施設の様子や運営状況をご理解いただき、利用や支援について説明し、通院介助などの協力を重ねて願う当行事であるが、新型コロナウイルス感染症蔓延ゆえ昨年度は開催を断念した。しかしながら、当年度は会場を他所に移し、面会者も絞り、参加職員も減らした上で、実施することができた。1年以上ぶりで面談をした家族もあり、感動的でさえあった。リスクはあったが、開催してよかったと感じた。

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内容	対応者
----	-----	----	-----

10/18	入所者(市議経由)	更衣不服、風呂掃除不満、雰囲気悪い	施設長
11/8	入所者(同上)	靴提供、処遇不公平、更衣不服など	施設長
12/6	入所者保証人	受診付添時の職員対応への不満	主任生活相談員

・10月と11月の苦情については、Hで説明。今後とも、迅速で懇切な対応を心掛けたい。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

事故	47	ヒヤリ	259	虐待懸念	1	身体拘束	3
----	----	-----	-----	------	---	------	---

・10月、11月と地元市議員経由で、市担当課及び市長宛に、ぎんもくせいでの処遇について利用者（氏名不詳）1名から苦情があったと連絡あり。内容はおよそ上記Gの様である。個々その内容について返答したが、中に「虐待」の言葉があることに年末に気づき、12月職員会で職員に意見、感想を求めた。また、1月に臨時虐待対応委員会を持った。認知症の疑われる入所者の夜着への更衣をしないのは虐待である旨の内容であったが、委員会での見解は「否」。夜間は特に在所確保を優先する、又それまでの対応に特段の不適切な対応はなかったと判断した。行政及び理事長に、施設の認識を報告した。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

・なかなか参加頂けない早朝、夜勤専門員、宿直職員にも参加を強く依頼。年間1回以上の参加を願った。次年度も求めている。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

・居室の排煙窓の修理が実施された。（約180万円：市の予算による）
 ・当年度内完了予定のナースコールシステム交換が、部品調達の不全により来年度頭に持ち越された。（約900万円：市の予算による）

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2020年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	116,416,506	111,737,149	△4,679,357
サービス活動費用計	114,642,948	111,880,793	△2,762,155
経常増減差額	1,801,311	△32,171	△1,833,482
特別増減差額	0	12,399	12,399
当期活動増減差額	1,801,311	△19,772	△1,821,083

※サービス活動収益の内、寄付金収益（なし）

※要望書への回答として、事務費1名分を収入に上乗せ頂いた。（5,643,740円の増収）

2 借入金償還報告 特になし

L 主務官庁に関連した報告

・新型コロナウイルス感染症の影響と思われる利用者減により、収入の減少甚だしく、予算措置を市長に要望。事務費を47人まで人数にかかわらず頂いていたが、+1名の48名事務費となった。需用費（生活費）については、要望は通らなかった。（上述K1*要望書参照）

M 実習生やボランティアに関する報告

・例年教員免許実習の学生の受け入れを2名程度行っているが、今年も昨年同様依頼無し。
 ・絵手紙クラブの先生が、謝礼を望まず現在、ボランティアで来て下さっている。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等） 特になし

2021（令和3）年度 事業報告

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）
 - 1 新施設移転に向けて準備をした。9 月 10 日に定礎式があり、毎月 2 回の定例会を行い、3 月に新施設が完成し、3 月 15 日に引き渡しとなり、2022 年 5 月 1 日に開所できるよう努めた。
 - 2 移転に伴い定員が減るため、ご利用者の調整が必要だったが、1 月後半より急激に減少傾向となり、調整せず移行できた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
 - 1 ご利用者とともに行う活動を増やし、心を込めた支援に努めた。職員が意見を言える環境作りと、褒める・認める・感謝するをモットーに、職員同士も感謝の気持ちを伝えるように努めた。
 - 2 地域貢献については、生活困窮者への食糧支援を法人で 1 回、真菜独自で 2 回行った。
 - 3 その他に勝間田小学校で福祉の授業を行った。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - 1 理念の継承と実践については、職員会議の時に佐々木先生の「人は命だけでは生きられない」の本を活用し輪読。やまばと 50 周年記念誌「それでも一緒に歩いていく」を活用し、意見交換を行った。
 - 2 職員の育成については、主任等研修における学びをとおして、利用者本位の支援や、リーダーとしての成長がみられた。実務者研修 3 名受講し、全員介護福祉士試験に合格した。
 - 3 職場環境の整備では、移転を検討していただき、みなさんのお力添えのお陰で、新築移転することができた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

通所介護 定員	登録者数 一月平均	利用者数	目標利用者 数一日平均	開所日数	一日平均	利用率
35	51	7458	27	302	24.7	70.6%

総合事業 定員	登録者数 一月平均	利用者数	目標利用者 数一日平均	開所日数	一日平均	利用率
14	11	664	6	202	3.3	23.5%

区分による利用者数

(実人数)

事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
45	49	36	277	116	119	70	31

(延べ人数)

事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
224	205	232	3323	1065	1724	791	555

2 職員状況

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	2	11	3	1	4	22
常勤換算	1.0	1.2	6.7	2.0	0.5	1.9	13.3
前月増減	0	0	△0.5	0	0	0	△0.5

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	613.8	最高残業時間	15.5	有給休暇取得率	75.7%
-------	-------	--------	------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催数	種類	参加者	開催数	種類	参加者
12回	職員会議	全員	12回	業務改善委員会	業務改善委員
12回	くもん月次検討会	くもん提供者	6回	ケース検討会	ケース委員
12回	DS会議	施設長・主任	6回	安全対策委員会	安全委員
12回	高齢者部会	施設長	12回	研修委員会	施設長
12回	施設管理者会	施設長	6回	給食会議	給食委員
2回	法人苦情解決委員会	相談員	2回	法人事故防止委員会	主任
2回	法人防災委員会	防災委員			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 日課については、午後の入浴や足浴など、ご利用者の希望に沿った支援を行った。
- 2 行事については、毎月の行事担当を決め、お花見や初詣などの外出行事も計画し、ご利用者の希望に応えることができた。初の試みで、ご利用者とともに献立を考え、材料を買いに行き、一緒に昼食（ちらし寿司）作りを行い好評だった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針を読み合わせる
毎月	ミニ研修	全員	職員会議でミニ研修、グループワークなど

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 - 1 行事担当を3人グループで計画・準備を中心となってい、他の職員とともに協力して行事を実施した。ひとつひとつの行事に心を込めて行うことができ、ご利用者の喜ぶ姿が見られ、成功体験を話してくれる職員の姿も見られた。
 - 2 職員会議のミニ研修で、グループワークを中心に行い、みんなで意見を出し合える雰囲気づくりをした。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	8/26	虐待防止	17	8/12	DS合同リスク研修	16
	11/11	感染症研修	14			
法人研修	5/22	新年度研修	7	5/24	防災研修会	3
	6/22	コミュニケーション研修	2	6/22	コミュニケーション研修	3
	7/19	SV研修（1）	2	8/25	SV研修（主任等）	1
	9/14	SV研修（管理者）	1	8/26	新人研修	2
	11/4	SV研修（管理者）	1	10/27	SV研修（主任等）	1
	1/29	SV研修（主任等）	1	12/3	SV研修（主任等）	1
施設外研修	6/16	くもん研修 web	3	7/13	BCP作成研修	1
	7/29	LIFEについて	1	9/2	感染症研修	1
	9/28	介護実践研修	1	7月～	実務者研修	3
	10/8	安全運転管理者講習	1	12/16	認知症研修	1
	12/21	転倒予防講座	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
8/5	生活困窮者のための食糧支援	職員 2 名、利用者 3 名
10/7	勝間田小学校福祉の授業	職員 4 名
10/7	オリーブ摘み	職員 2 名、利用者 3 名
3/30	生活困窮者のための食糧支援	職員 2 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
2 月	介護者の集い	コロナ感染拡大の為、中止

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
2/25	利用者家族	連絡帳の内容について	主任生活相談員
3/1	利用者家族	送迎職員の態度について	主任生活相談員

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	38	ヒヤリ	65	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

※車両物損事故 4 件 ※行政へ報告した事故 3 件（転倒、車イスから転落、車内で転倒）
 ※救急車要請（体調急変）1 件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 防災訓練は毎月行った。避難確保計画を市へ提出し、避難訓練の報告も提出した。
- 2 法人の安否コールの返信率 89%だった。

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

移転のため、新施設の建設を行った。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増減
サービス活動収益計	76,895,663	81,066,235	△4,170,572
サービス活動費用計	68,872,413	70,411,326	△1,538,913
経常増減差額	8,184,630	10,955,801	△2,771,171
特別増減差額	27,425,264	15,770,000	11,655,264
当期活動増減差額	35,609,894	26,725,801	8,884,093

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 30,000 ）

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2022/3		20 年	法人本部	30,000,000	0	30,000,000

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

移転に伴い、運営規定など変更の申請を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

コロナ禍でボランティアの受け入れを中止したが、花苗の寄付 2 回、草刈り 2 回ボランティアに来てくれた。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 1 月 27 日に利用者 1 名、新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生し、1 月 28 日から 2 月 1 日まで休業した。
- 2 12 月 12 日に牧之原市介護者のつどい開催した。

2021（令和3）年度 事業報告

認知症対応型通所介護 デイサービスセンターすずらん

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）

1 年通して体調不良・入院・入所で利用者は安定しなかったが、見学・体験利用・臨時利用等にも迅速に対応し、年間稼働率は昨年と比べ若干向上しました。

可能な限り住み慣れた地域での生活を営んでいただけるよう、利用者一人ひとりに合わせた運動メニューを通所計画書に表し、身体機能の維持向上を図りました。

2 月にご利用者 2 名の新型コロナウイルス発症があり 1 週間の休業となったが、感染拡大することなく事業再開となりました。感染症対策で家族会等は未実施。お便りは年 3 回の発行となりましたが、運営推進会議資料を全利用者宅に配布し、活動状況を報告、ご意見を頂戴することが出来た。デイサービス真菜と合同で感染症・防災・介護技術等の会議・研修を実施、互いに学び合うことが出来た。
- 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

基本理念を意識して、常に感謝の気持ちを持って笑顔で利用者に接しました。その一方で、利用者・家族・職員間での言葉遣いや聴く姿勢のスキルアップは職員の入れ替わりが多く、課題が残りました。
- 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

全体会議・ミーティングでのサービス提供指針・服務心得の読み合せを継続実施。

内部での職員育成は恵の丘全体の内部研修とすずらんミーティング後の研修を実施。

認知症実践者研修、管理者研修を 1 名が終了。身体拘束廃止フォーラム（YouTube）視聴は全職員が受講しました。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
12	18	+2	304	2650	8.7	72.6%
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	1	11	4	1	1	0

2 職員状況

	施設長	認知デイ管理者	相談員	介護員	看護師	運転手	事務員	合計
実人数	1	1	1	5	1	1	1	11
常勤換算	0.2	1.0	1.0	3.94	0.025	0.15	0.2	6.515
前年増減	0	0	0	+1	0	0	0	+1

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	612 時間 35 分	最高残業時間	355 時間	有給休暇取得率	66.3%
-------	-------------	--------	--------	---------	-------

有給休暇取得率は特定の職員の体調不良時取得により例年に比べ高い数字となった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
月 1 回	恵の丘職員会議	1 名	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
月 1 回	すずらんミーティング	全員	業務等、利用者状況の共有、各委員会報告、研修
年 7 回	DS 真菜との合同会議	米山	通所の BCP/感染症対策の検討・訓練、介護技術等
年 1 回	法) 事故防止委員会	米山	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年 1 回	法) 防災委員会	米山	防災研修会、各事業所の BCP の共有等
年 1 回	法) 虐待防止委員会	山脇	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策
年 2 回	法) 苦情解決委員会	小池	苦情解決経緯・対応等の検討、第 3 者委員講評

年4回	感染対策等委員会	米山	感染症及び食中毒まん延防止のための対策検討等
年3回	安全対策等委員会	米山	介護事故・虐待防止、身体拘束廃止の対策の検討
年6回	食事レク委員会	1名	献立・形態の検討、要望等、全体レク打ち合わせ等
年2回	運営推進会議	2名	施設運営実績の報告、意見交換、

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

利用者から希望の多い食事作り・外出は感染症による制限もあって十分な提供が叶わなかったが、腰痛予防体操、転倒予防体操、認知症予防体操、入浴動作体操、トイレ動作体操等、具体的ですぐに行えるものを準備し、意欲的に取り組んでもらえた。

1対1で関われる入浴の時間を有効に使い、利用者一人ひとりの体調不安などを伺い、活動による改善や助言を行った。

狭い中での感染対策でリビングの配置に変化を持たせることは難しかったが、好みのレクを手早く提供できる体制で居心地の良い居場所作りを行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと ※今までにない視点となる。意識した活動を

1 同じ目標を認識するためのプログラム

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全員	ミーティングでサービス提供指針の読み合せ
		1～2名	全体職員会にて服務心得・提供指針読み合せ

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

昼食後の休憩時間にケアの悩み・相談、個人の趣味、家族の話をするなどざっくばらんに語り合える時を持つように努め、互いに助け合うことにつながった。

3 研修報告

種別	日付	内 容			人数	
施設内研修	毎月	感染症・認知症・身体拘束廃止・虐待・リスク・個人情報等			1	
DS内研修	年9回	記録、言葉、身体拘束、危険予知2回、長谷川式スケール、リスク、異常の早期発見、安全の決め手となるコミュニケーション、感染対策、介護福祉士試験問題			全員	
法人研修	年3回	SV研修	1	5/24	防災研修	1
施設外研修	計6日	認知症介護実践者研修			1	
	3/10・11	認知症対応サービス事業所管理者研修			1	
	年2回	救命講習			3	
	7月	防火管理者研修			1	
	11月	社会福祉施設当職員防災研修会			1	
	2/16	LIFE（科学的介護情報システム）研修			1	
	2～3月	身体拘束廃止フォーラム			全員	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
6/19	生活困窮者への食糧支援	全員
年2回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション	1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年3回	すずらん便りの発行	全利用者・家族
年2回	運営推進会議	

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	4	ヒヤリ	31	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

グレイスの防災訓練に参加、避難経路等、入所とは別ルートでの検証を実施。
5月に市内に突風による建物被害・停電等が見られたが利用者・職員に直接の影響は無かった。

J 環境整備（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	31,512,453	29,979,830	1,532,623
サービス活動費用計	26,207,286	26,163,299	19,456,641
経常増減差額	5,309,377	3,820,169	△412,446
特別増減差額	△2,192,000	6,424,000	△8,616,000
当期活動増減差額	3,117,377	10,244,169	△9,028,446

※サービス活動収益の内、寄付金収益（なし）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）

12/24 実地指導（牧之原市）、指摘事項なし。助言事項については速やかに改善した。

M 実習生やボランティアに関する報告

感染症の終息が見られず、実習生・ボランティアの受け入れは断念した。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

大きな指摘事項なし。

2021（令和3）年度 事業報告

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさふらん

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
事業所の活動方針である「可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられる支援」をするため、利用者それぞれの状況や課題などの情報を職員で共有することができた。ご家族やケアマネジャーとの情報共有を行うことで、適切なケアに繋げることができた。コロナ感染者及び濃厚接触者へのケアの要請にも対応した。全体のケア件数は前年度に比べ減少済みですが、総合事業の要請が多く収支バランスが悪い結果となった。ホームヘルパーの確保に苦慮している状況です。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
職員会議等で「サービス提供指針」の唱和を必ず行なった。法人50周年記念誌の『それでも一緒に歩んでいく』を読み、法人の歩みを知り自分たちのこれからのについて考える研修を実施。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
理念の浸透と実践は、上記2のとおりです。聖書の学びは実施できませんでした。
職員の育成については、外部研修への参加が難しい状況の中オンライン研修を取り入れ、全員が受講できるようにした。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

介 護			総合事業		自費	合計
身 体	身体生活	生 活	訪問型	緩和型		
4,206	1,593	406	2,012	305	277	8,799

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備 考
施設長	1名	1.0	聖ルカホーム管理者兼務
ホームヘルパー	15名	—	正職員3名、準職員1名 登録ヘルパー11名（他事業所兼務3名）
事務員	1名	0.5	聖ルカホーム事務兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	1,003時間55分	有給休暇取得率	61.2%
-------	------------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
5/12 6/23 8/6 9/15, 16, 17 10/19, 20	職員ミーティング	全 員	ヒヤリ、事故、苦情報告 ご利用者状況の共有 研修報告 事務連絡 研修会

11/17 12/17 1/18, 20			<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防 ・法人理念研修 ・介護技術 ・記録の視点と目的
----------------------------	--	--	--

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ①介護保険外サービスで、ご利用者の買い物希望を支援
- ②家事援助など、残存能力がある方には一緒に作業をしていただき機能の維持を図る
- ③職員に話を聞いてほしいご利用者には、サービス提供をしながら楽しい会話ができるよう支援している

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
毎 月	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振返り次月に繋げる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員会や各種会議では、役職や身分に関わらず誰もが発言できるように“会議の目的”を毎回確認した。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	5/20	標準的感染予防策	10	6/23	法人理念の研修	11
	8/6	ベット上での洗髪	6	9/15, 16, 17	コロナ感染対策	13
	10/19, 21	記録の視点と目的	15			
法人研修	5/22	新年度研修	1			
施設外研修	7/15	リスクマネジメント	2	8/16	一般研修	1
	9/16	多職種連携と服薬	1	9/27	タッチケア	1
	9/28	介護技術	1	10/18	ケアマネジメント	2
	11/2	急変を見逃さない	1	11/10	フットケア	1
	11/15	B C P作成	2	11/26	高血圧と心不全	1
	12/10	褥瘡、皮膚ケア	1	12/16	認知症の人に寄り添う	1
	1/14	障害者の居宅支援	3			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ①介護保険サービス以外のサービスを実施
- ②社会福祉法人減免

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
10 月	ご家族アンケートの実施	ご利用者及びご家族

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
8/21	利用者家族	感染予防のため、予防着を着用し訪問すると「コロナ感染者がいる家と思われる」と心配された	サービス提供責任者
9/28	利用者近隣住民の方	ヘルパー訪問時、車両が隣の駐車場にかかって止めてしまったため範囲内に止めるほしい	サービス提供責任者
11/29	包括支援センター オリーブ	ご利用者の貴重品が入っている箱を、所定の位置に戻さずその場を離れた。貴重品でもあり、ご利用者の通る場所であるため危険でもある。	サービス提供責任者

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	8	ヒヤリ	8	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

ご利用者宅の自然災害などの予想状況を調査し、訪問時に災害があった場合のヘルパーの取るべき行動について話し合いを行った。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	32,485,344	34,934,085	△2,448,741
サービス活動費用計	32,170,996	33,114,230	△943,234
経常増減差額	166,347	1,671,661	△1,505,507
特別増減差額	0	△4,056	△4,056
当期活動増減差額	166,347	1,667,605	△1,501,258

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 50,000円 ）

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014.10.7	0.57545	10年	静岡銀行	5,000,000	1,119,300	3,880,700
2014.10.7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	22,500,000	4,656,400	17,843,600

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

なし

2021（令和3）年度 事業報告

居宅介護支援事業所 シャローム

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告
サービス内容は計画通りに実施。
職員配置・人材育成では 1 人体制の居宅となったため事業所内実施はないが、介護支援専門員試験合格者の実務者研修のアドバイス、後方支援を行った。また、2 人体制として予定していたアンケート調査や災害想定机上訓練は未実施となった。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
「ともに生きる」の理念のもと、利用者親族・成年後見人・民生委員・包括支援センター等と連携して支援を行った。特に老々介護・独居の方には、その人らしい在宅の生活が円滑に営めるよう当事者性を持って、地域とのつながりを深め支援を行った。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
月 2 回は理念に触れる機会を持ち、50 周年記念誌の黙読を実施した。
9 月～10 月、計 7 日間の研修で介護支援専門員資格を更新、時期が重なった法人 SV 研修は途中より参加が叶わなかった。その他 Web での外部研修・内部での研修実施。
感染症対策の徹底で、多くの研修・会議は ZOOM で実施。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	月平均	利用率
1 人 35	29	-33	251	375	31	80.1%
総合事業	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
1	2	4	12	8	2	2

2 職員状況

	施設長	主任介護支援専門員	介護支援専門員	事務員	合計
実人数	1	1	0	1	3
常勤換算	0.05	1.0	0	0.05	1.1
前年増減	0	-0.5	-0.5	0	-1

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	118 時間 30 分	最高残業時間	118 時間 30 分	有給休暇取得率	30%
-------	-------------	--------	-------------	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
月 1 回	恵の丘職員会議	栗林	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
月 1 回	市主任ケアマネ会議	栗林	ケアマネ育成所・資質向上のための研修企画・講師
年 2 回	ケアマネ連絡会役員会	栗林	年間計画、予算、総会打ち合わせ、次年度計画
年 1 回	法)事故防止委員会	栗林	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年 2 回	法)防災委員会	栗林	防災研修会、各事業所の BCP の共有等
年 1 回	法)虐待防止委員会	山脇	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策、
年 1 回	法)苦情解決委員会	栗林	苦情事例の解決経緯・対応等検討、第 3 者委員講評

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

個々のケースに合わせてサービス利用計画を立てるだけでなく、ご本人ご家族の真の願いが達成できるように声掛け・紹介・提案等を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
月 2 回	理念の継承	全員	50 周年記念誌の黙読

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
1 人体制で特に実施はないが、併設特養・通所介護との協力関係の中で交流を深めた。

3 研修報告

種別	日付	内 容				人数
施設内研修	年 7 回	感染症・認知症・身体拘束廃止、虐待、リスク、個人情報等				1
法人研修	3 回	SV 研修	1	5/24	防災研修	1
施設外研修	7/13	自然災害・感染症 BCP 作成のポイント	1	9/8～12/26	ケアマネ更新法定研修	1
	10/4	事例検討の進め方	1	11/17	ケアマネと基幹病院との情報交換会	1
	2/27	依存症について	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
6/19	生活困窮者への食糧支援	1 名
10/8	坂部ふれあいサロンにて遊びりセッション	1 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
月 1 回	利用者宅訪問	1 名 全利用者宅

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	0	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

恵の丘の防災訓練に参加、予定していた机上訓練は未実施。5 月 1 日牧之原市内に竜巻等災害が発生、建物被害・停電により早急な対応に迫られるご利用者の支援を実施した。

J 環境整備に関する報告 (100 万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2021 年度決算	2020 年度決算	増減
サービス活動収益計	4,614,416	9,577,095	△4,962,679
サービス活動費用計	6,194,110	12,010,630	△5,084,719
経常増減差額	△1,579,694	△2,433,533	122,038
特別増減差額	2,192,000	8,559,000	△6,367,000
当期活動増減差額	612,306	6,125,467	△6,244,962

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (なし)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他)

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

事業所への受け入れなし。 恵の丘へのボランティア受け入れ時の対応に協力。
予防であっても老々介護となっている等の個々のケースに地域のボランティアをインフォーマルな支援として位置付けて支援した。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

利用者契約書の始期と終期の明確な記載が欠けているとの指摘をいただき、再確認の上、不備を訂正した。

2022（令和4）年度 事業報告

介護予防支援・地域包括 包括支援センターオリーブ

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告(総括)
自立支援、介護予防・重度化防止を推進する介護予防ケアマネジメントの実践や、地域包括支援ネットワークの構築、成年後見センターとの円滑な連携など市の運営方針に沿った事業を進めました。今年度は包括内に事務員を配置した事で専門職の事務簡略化につながりました。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
ご利用者を大切にしたい、自立支援につながる計画を立て、在宅での生活が長く遅れるような生活支援を中心に支援をしました。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
主任等研修を通し、自分の役割を理解し、職員育成に努める自覚を持ち、レベルアップに勤めた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

件数	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
オリーブ	157	158	162	162	156	161	159	158	152	159	153	154	1891
委託	49	46	46	44	46	43	41	48	45	45	49	46	548
合計	206	204	208	206	202	204	200	206	197	204	202	200	2439
実態把握	4	4	21	14	19	14	52	30	40	30	31	24	283

2 職員状況

	施設長	社会福祉士	保健師	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数	1	1	1	1	1	2	1	8
常勤換算	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	0.47	7.47
前月増減	0	0	0	0	0	0	0	0

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	1021時間	最高残業時間	210	有給休暇取得率	43.4%
-------	--------	--------	-----	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会 開催状況

開催日	種類	参加者	内容
第1火AM	職員会議	全員	行事計画・ヒヤリ事故報告・ケース検討 等
9/27・3/11	法人防災委員会	大畑	防災訓練打合せ・事業所BCPの検討など
第2火18時	(法)研修委員会	所長	全体研修打合せ等 11回/12回
第2・第4水	3包括・市連絡会	所長・3職種	市・3包括共有事項・ケース検討など

* 他専門職各会議(主任ケアマネ・権利擁護関係など)

C 利用者の喜びのために工夫したこと

特になし

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラム

日付	プログラム名	対象者	内容
第1火	理念の継承	全員	カンファレンスで理念とサービス提供指針を読み合わせる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記の事を行った。
 - ・コロナ禍でもあり市内のお店から昼食を毎週金曜日に注文し、食の楽しみを共有した。
 - ・生活支援センターと同じ場所にいるので障害高齢同居世帯のケースワークを共有した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
----	----	----	----	----	----	----

施設内研修	4回	身体拘束・成年後見	8人	4回	感染症・情報管理	8人
法人研修	10回	SV研修(管理者主任)	3人	5/22	新年度研修	8人
施設外研修	2回	県マネジメント講座	5人	3回	全方位型アセスメント	3人
〃	2回	包括職員基礎研修	4人	2回	自立支援プラン作成	4人

他、web研修など専門分野の研修(合計16の研修)にそれぞれ参加した。

4 報酬、賞与に関する特記事項

なし

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
啓発事業	3	1	1	1	1	0	0	1	2	1	2	0	13
活動支援	1	1	0	6	0	0	0	0	1	0	0	1	10

※啓発の訪問先は地区のサロンや個人の集まり場所など。それぞれ年間20回ずつの予定がコロナで中止になった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

特になし

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内容	対応者
4/28	市民の方	事業所に送るFAXを市民宅に送信をしてしまった(2回)	主任
6/9	利用者の知り合いの方	利用者の知り合いが相談したのに、利用者の出かける場所が決まりその報告がなかった。	訪問対応した職員

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	4	ヒヤリ	0	虐待対応	4	交通事故	0
----	---	-----	---	------	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

法人防災訓練2回、安否コール12回/年 市役所防災訓練1回、伝達訓練2回/年

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況 (事業活動)

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
介護保険収入計	40,256,874	40,483,559	△226,685
サービス活動費用計	40,748,028	40,420,048	327,980
経常増減差額	△490,094	130,751	△620,845
特別増減差額	0	△4,056	4,056
当期活動増減差額	△490,094	126,695	△616,789

※サービス活動収益の内、寄付金収益(なし)

2 借入金償還状況

契約年月日 利率 期間 金融機関 借入額 償還額 残額 なし

L 主務官庁に関連した報告(実地指導や指導監査等の報告、許可申請 その他の報告)

職場は健康福祉センターさざんか。評価は運営協議会で年に2回。

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生受け入れはなかったが、ボランティアに関しては、2名の利用者の受診時の送り出しをさくら会に依頼し、合計12回対応を依頼した。

N その他(幹事監査指摘事項への対応など、特に記すべきことなど)

1 介護予防支援と総合事業の説明で資料を持参しなかった。次回資料を渡す。

2 苦情・事故・ヒヤリで職員への回覧は2回したほうが良い。(報告とその後の回覧)

2021（令和3）年度 事業報告
（施設種別） 介護予防拠点
（施設名） コミュニティセンターぶどうの木

A 2021 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の 2021 年度事業計画に関する報告（総括）
 - （1）100 歳の方をはじめ平均年齢 89,3 歳と高齢者が多く利用され、目標を達成し卒業されて地域活動に励まれる方がおられる一方で、事業対象者から要支援、要介護状態に悪化するケースがみられた。
 - （2）昨年度よりもより多くの閉じ込めりの方が利用された。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
 - （1）職員会時には必ず法人の理念・サービス提供指針の読み合わせを行った。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - （1）職員の育成
時間内で全員が同じ研修を受けることができた。
 - （2）地域福祉への貢献
コロナ化で地域からの要請が少なく地域へ出向く回数が減ったが、電話等で相談をすることや受けることができた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	開所日数	延利用者数	一日平均数	利用率
25	664	261	2132	8.2	58.6%
事業対象者	要支援 1	要支援 2			
528	56	80			

2 職員状況

	施設長	常勤専任	パート支援員	パート兼務支援員	事務員	合計
実人数	1	1	2	1	1	6
常勤換算	0.5	1.0	1.5	0.2	0.5	3.7

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	26,5	最高残業時間	14,5	有給休暇取得率	76.5%
-------	------	--------	------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月 1 回 全 12 回 必要時	職員会議	全員	行事計画・ヒヤリ事故報告検討 利用者ケース検討 各種委員会・研修報告等
年 3 回 年 6 回 年各 2 回	防災委員会 編集委員会 ヒヤリ・事故・苦情	曾根 曾根 曾根	事業所 bcp の検討 やまばと機関紙 報告検討会
全 6 回	合同カンファレンス S C、包括集いの場検討	全員	利用者カンファレンス（CM、S C 合同で） 集いの場情報交換と話し合い

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- 1 毎月歳時記に合わせた行事を実施し、利用者職員が共に出番を演出して楽しめた。
- 2 誕生日カードにメッセージと写真を添え手渡した。

D. 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
年 12 回	理念の継承	全員	職員会でサービス提供指針・サラ・ヤング著法人の私たちの願いを唱和、読み合わせをした
毎日	情報共有	全員	連絡ノートの確認

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
リクリエーションに「劇」などを取り入れ、1 か月の計画準備期間の中で企画脚本・物を

製作したり練習したりして本番を目指し全員で取り組み協力することができた。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	8/17	栄養口座	3	7/13	口腔ケアと機能向上	4
	12/14	感染症予防	4	9/7	介護予防マネジメント	4
法人研修	5/22	新年度研修	4	7/19	SV 研修 6 回	1
	11/24	エデンオルタナティブ	4	5/24	bcp の考え方と活用	4
施設外研修	5/18	福祉制度勉強会	4	11/15	サービス提供事業者説明	1
	11/26	高血圧と心不全	1	12/21	転倒予防講座	1
				12/1	福祉施設職員等防災研修	4

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

回数	内 容	参加者
年 46 回	居場所づくり連絡・会議・訪問	職員 1 名、SC1 名、包括 1 名
年 11 回	地区サロンへ介護予防教室を実施	職員 2 名、利用者 158 名
年 9 回	近隣地区お茶飲み会	利用者 34 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

1/20	アンケート調査実施	家族 48 名(40 名回答あり)
------	-----------	-------------------

*毎月 1 回「ぶどうの木だより」を発行

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	2	ヒヤリ	5	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※外出時、車中に利用者を 25 分程取り残してしまった。牧之原市へ 1 件報告した。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月安否コール訓練 98%	5、1 月備蓄品のチェック	10 月全体防災訓練	Bcp 作成見直し
---------------	---------------	------------	-----------

J 環境整備に関する報告 (100 万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	前々年 2020 年度	前年同期 2021 年度	増減
サービス活動収益計	15,006,140	15,653,600	647,460
サービス活動費用計	15,549,190	15,660,251	111,061
経常増減差額	△441,730	△2,809	438,921
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	△441,730	△2,809	438,921

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (0 円)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

- 7 月から理学療法士を配置し「短時間リハビリテーション」を開始した。転倒などのハイリスクを抱え、改善が見込まれる方を対象に 3 ヶ月から 6 ヶ月の短期間で実施した。

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

- 事業所内で感染の発生はなかったが、家庭内で利用者 1 名コロナに感染した。
2/21 午前ほとサロン利用、午後ワクチン接種を行った。
2/22 (2/20) 頃から発熱していた別棟のひ孫が陽性と判明。他のひ孫との接触あり。
2/23, 24 に次々と他のひ孫やその父親の孫も感染した。
2/25 本人 PCR 検査の結果陽性と判明し、榛原病院へ入院し 3/4 退院となった。
本人から、退院後療養のため 3 月中お休みの連絡を受けた。法人、牧之原市長寿介護課へ連絡し、2/21 に一緒に利用された利用者へ体調の確認を取ったが問題はなかった。

2021（令和3）年度 事業報告

付属明細書

該当なし